

勸農或問

快烈主人著

坤

農商務省
圖書
第 五 六 七 號
共 冊

太政官文庫
和書門
八三七九
類號函架冊
二

內閣文庫
和
八三七九
二冊
八架

內閣文庫	
番號	和 8379
冊數	2 (2)
函號	182 189



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

勸農或問卷下

總論五弊緩急

首論去煩擾之術

次論除橫斂之術

次論均力役之術

次論破兼併之術

次論禁侈惰之術

終論節用愛人之道

大業集 卷之三
大業集 卷之三
大業集 卷之三
大業集 卷之三
大業集 卷之三
大業集 卷之三
大業集 卷之三
大業集 卷之三
大業集 卷之三
大業集 卷之三
大業集 卷之三
大業集 卷之三
大業集 卷之三
大業集 卷之三
大業集 卷之三

或問富國ノ本務ハ勸農ニ在テ勸農ノ政先ツ
五弊ヲ除クニ此ヨリ五弊ノ目既ニ其詳ト事ヲ聞ク
ヲ得タリ然レトモ侈惰兼併力役横斂煩擾五ツノ
モノ皆大弊ト謂ヘシ令是ヲ救ニ何ノ處ヨリカ手ヲ下
スヘキヤ先ツ最初ニ侈惰ヲ矯ヘキカ如何曰五ツノ弊悉
ク除カサレハ其効ナクヘシ是ヲ救ニ術アリ侈惰ノ禁シタ
キト勿論ナレトモ此弊ニテハ中ニ禁シテモ益ナカルヘシ益
ナキトテ終ニ禁スヘカラスト云ニ非ズ前ノ後ノ次第アル



ヘシ邦ノ人負クナリテ課丁日ニ寡ク墾田歳ニアル如何
トモスヘカラサレスカタヲ以テ思ハ一ニ侈惰ニニ兼併ニ
カ役四ニ横歛五ニ煩擾ノ弊嚮ニ次茅スル所ノ如シ今是
ヲ改メ仁政ヲ施サントナラフ却テ先茅五ノ弊ヨリ手ヲ下
シテ第_二茅三茅一ノ弊倒スマニ除クヘシ煩擾
ノ弊草マラサレ時ハ吏治ノ本立ス民ヲ治ントレテ却
テ乱ル事モヤリ如何ナル仁政良策アリテモ行_二届ク
ヘカラス故ニ首トレテ是ヲ除クヘシ次茅ニ横歛ヲ除

テ税法ヲ簡易ニシ民ニ心服サセ次ニカ役ノ法ヲ更テ
民カラユルクシ農時ニ違フヲナシ凡身アル者悉ク役
アリテ游手浮浪ノ徒幸ニシテ免ルコト能ハスカ田ノ
者獨困シムコトナカラシメ役ヲ施スコト其年ヲ論シ因
以老ヲ安シ幼ヲ慈スルノ教ヲ施シ次ニ兼併ヲ除テ貧
富幸不幸ナリ民ヲシテ其業ヲ安シ均田ノ後常免
ヲ行ヒ上下共ニ利アルヘシ然後ニ百姓ヲ役スル道アリテ
嚴ニ侈惰ヲ禁シ風俗勤儉庶アリテ且富ニ教化

行レ安ク四境ノ内悉ク仁壽ノ域ニ跨シメント欲ス是
 竊ニ明君賢相ニ仰ク所ナリ 問煩擾ノ弊
 ラ除クフ如何曰省法擇人虚文ヲステ、实效ヲ責ルニ
 如クナシ今ノ繁密瑣細ノ法多クハ元祿己後ノ出
 来物ニテ民治ニ益ナキ物悉是ヲ革除シ、威公
 義公ノ旧法ヲ修テ是ヲ用ニ當時制法ノ本意ヲ
 考テ今世ノ人情ニ揆リ善者ヲハ是ヲ存シ斟酌
 スヘキヲハ斟酌セシメテ一切ノ政令 威義二公ノ旧制ニ

遵ヒタマフ昔貴賤大小共ニ告諭アラセラレ有懲フ
 ラ示シ冬ハ、信從セサル者有ヘカラス是歴代賢君
 良佐中興ノ功業皆此道ヲ以テセサルハナシ一國ノ
 紀綱是ニテ復張スヘキ本ナレハヒトリ民政吏治ノ未
 ノニニテラス脩旧法擇其善者而業用之齊ノ管仲カ
 故智今ノ世ニ用テ大効有ヘキナリイカニ 威公
 義公ノ旧法ヲ脩タマフトモ、苟非其人道不虛行トモ
 神而明之存乎其人トモマタ其人亡則其政息トモ

云事アレハ法ハカリタノニナラス人オノ擇ミ肝要ナリ
 法ヲ詳密ニ立テ人オヲ束縛シ智愚一様ニ舊
 法故例ヲ以テ牽制センヨリハカヘツテ其大綱ヲ存シ簡
 易ニシテ易知易從カラシメ臨時ノヲ簡ニ至テハ便
 宜從事トテ器量次第ニ取扱フ事ヲ許シ少クハ
 過失ハ処メス其職事一体ノ理不理ノ上ニ就テ賞
 罰アル時ハ煩擾ノ弊滌然トシテ除キ去ヘシ擇人ノ事極
 テ容易ナル事ニ非サレトモ委任シテ責成功ノ道ヲ用

タマハサマテ六カ敷フニモ有ヘカラス久シク委任シテ成功
 ラ責ル時ハ賢者ハ績ヲ底スヘシ不肖者ハ職ニ堪ス
 シテ去リヤスシ上ニシテ好詳多クハ十餘人ノ手代共ノ
 能否マテ詮義シタマヒテ黜陟ノ事モ及ヒコシニ御
 世話アル様ニテハ中ニ行届クフ有ヘカラス明君既ニ
 賢相ヲ擇ヒテ任シタマフ時ハ執政大夫相共ニ良キ
 郡奉行ヲ擇ヒテ任シタマフ郡奉行既ニ一郡ノ政ニ任
 セラル時ハ其支配ハ鄉村ノ諸事ハ申ニ及ハス御預

ノ手代能否ノ品進退ノ事頭ノ存分ニ取行ニ遠
憲アルヘカラス其ウチ殊ニ勝レタル者ヲトヘ薦舉シ
器量次第ニ升擢シテ其資格ヲ進ムヘシ薦舉ス
ル所ノ者不肖ナラハ舉主ノ罪過ノカレカタカルヘシ凡ソ
古ノ賢君良相知人ノ時後人ノ及ビカタキ事ハ
古人ノ令人ニマカリタル而已ニモアラス其知人ノ仕方
要ヲ得ルト得ザルトノ差別ナリ君ハ執政大夫ヲ擇ビ
タマフノミニテ執政大夫ハ又諸ノ奉行頭人ヲ擇ビ諸

諸奉行頭人又其支配ノ小吏ヲ擇フトキハ一回ハ扱
置キ天下ノ廣キトイフトモ知人ノ明骨折ラスニテ
行届ク道理ナリ然ルヲ奉行頭人ノ選ビラハ鹿略
ニシテ其下ノ手代共ノ吟味マテ執政大夫ヨリセラ
ルヤウニテハ業取腥繁雜ノ患ニ堪ヘサルノミニアラス
奉行頭人モ自然ト其職ニ怠ルナリ俗人ノ了簡ニハ
今ノ世ニ一郡ヲ任セラテ一分ニテ諸事ヲ裁判シ又
配ノ手代共々務方ノヨシアシヲヨク吞込黜陟宜ニ

アタリ程ノ郡奉行ハアルマシト思フテ郡奉行ノ心得
 兼 諸手代ノ勤メ方能否賢不肖ニ執政大夫ヨリ
 指揮セラレ候様ニ申人モアレトモ是ハ大体ヲ知ラス
 トイフ者ナリワツカ僚属ノ治メサヘ行届カル者ニ一
 郡ノ政ヲ任スヘキ謂ナレ古ヨリ長官ノ僚属ヲ擇フ
 フ定レル事ニテ今モ幕府ニテ三奉行并所郡代
 所代官等ハ皆一職ノコト各々功ニテ下役ノ辟除ハ奉行
 頭人ノ心次第ナリト承ル尤其中ニ弊モ有ヘケレモ大

體ニ於テハ其宜ヲ得多ト謂ツヘシスヘテ諸役所ノ小
 吏ヲ立替ル事頭人ノ存分名ニ奉行頭人年數
 ノ勤勞ニヨリテ祿ノ加増アルコト今ノ時勢ニ甚不可
 ナリ縱十年二十年乃至四十年五十年又ハ百年勤
 メ多トモタ、碌々トシテ負ニ備ルノミニテ所部ノ戸口モ増
 ナス田野モ闢カス風俗モ美ナラスアラワレタル大功キ
 人年數ノミニテ子孫ニ傳フル世祿ヲ與フヘキ謂レナレカ
 ヤウノ輩ニ年功ニヨリテ加増アル故ニ知行列ハリタラス

レテ自由ニ賢オラヲ舉ルコト能ハス役人モ職事ヲハ第二
 義トシマツ己ノ利祿ヲ計リ百姓ハ如何様ニ成トモ構
 ハス上ヨリ仰出サレタル條令ヲ奉行シ下ヨリ申出ル訟
 獄決断シカタクハ内濟或ハウカヒニシトウク年數無量
 ニサヘ勤メ居レハ骨折ラセテ知行ハ取退ク物ト心得ル故
 真實ニ民事ニ心ヲ尽ス者ナシ自今己後ハスヘテ諸役
 人ノ役料ヲ定之メ小給ノ士ヨリ舉用ヒ其役ヌリレハ旧ノ
 給分ヲ賜ルコト幕府ノ法ノ如クナルヘシソレハカリニテハ

殊功大勤勞アル者ノハケニ薄キ事モアルヘケレハ是ハ
 考課ノ法ヲ嚴シテ加恩ノ仕方アルヘシ小吏ノ辟
 除ニ至テハ頭人ノ心得ニ在レハ選舉ノ術クワシク論スル

二及ハス 寛永條令ニ于テ代輩其道無鍛鍊者人数一分ニ抱置其
 役所帯有之者ハ為越度事ト仰出サレテヨリ 義公ノ御時ニテ

人オノエラミレハレハ其命アリ今于テカカル多クハ人数一分ニ抱置
 故碌々トシテ頭數ノミ多クハ人アリテモウツカ甲ノ用ニモ喜ルコト多クト聞ニ但今ノ手

代給分甚微薄ニシテ善キ人ヲ得カタクヤ、モスレハ賄賂ヲ
 招キヤスレ人ニヨリ何程大祿取リテモ賄ヲ好ム者アレドモ
 是ハ格別小吏ノ月俸衣食ノ足ラステテ代耕ノ祿トモ

イヒカタキ程アテカヒ置其廉潔ヲ顯シ贓罪アリトテ
是ヲトカニセンハ不仁ナリ昔ハ手代モ十四石取アリ十石
三人扶持次ニ七石二人扶持等次第ニ薄俸ニ成リ
然レハ頭人ノ了簡ニテ手代ノ目キ、ラシテ預ケノ手代
料ノ内十四石位マテハ御断ヲ申テ授クヘシ其次ニ
十石次ニ七石ヲ限同シ手代ノ内ニモ人才ノ高下歳
月ノ勤勞ニヨリ幾段ニモ品ヲ分ツヘシカク俸ヲ増ス兵
公上へ御費ヲカケス只今ノ手代ノ人数ヲ大ニ減シ

其給分ニテユリ合セ餘アルヘキナリ今郡邑ノ治御
郡方ト御代官方トニニワカレタル事頗ル繁キニ失
スレノ弊ナキニ非スレカレトモ是ハ先君参驗ノ術ヲ施
シタマフヘキ為メ立タマヒシ所ナレハ姑ク置テ論セス
昔ハ御代官方
ニテモ土地方訟獄等ニモ参預セシトイフ今ハ其事タヘテナキニ手代スヘテ守
人餘アリト云是モ人ヲエラミテ負數ヲ減スル仕方モ有ヘシ 御
郡方ハカリニテ四郡々々ノ手代スヘテ八十人ニ及ヘリ提封
四十萬石ト見ハ一万石二人ノツモリナリ昔人モヨク郡ヲ
治ル者ハ一万石一人ノ下代ニテモ治ルトイヘル事アリ委

任ノ道明ラカニ法令易簡ニシテ便宜後事ラユ
ルレ一切煩擾ノ弊ナキハ八十人ヲ四五十人ニ減シテモ
餘裕アルヘシ然ルハ是マテ八十人ニ付テ逐ツカハルニ夫
傳馬モ自ラ減シ無用ノ虚費モ自ラ省キ萬事果
敢テ故民ノ喜フテ限リナカルニ年代三四十人ノ役ヲ
奪フ事不慈悲ナル様ナレトモ是モ仕方アルヘシ且手
代ヲ召放サレテコマルモノハワツカ三四十人ナレトモ喜
モハ四郡ノ二十餘萬人ナリ大ラ以テ小ニ易フヘキ謂

ナシ古人監司ノ不才ヲ患テ其班簿ヲ祝テ一筆
ニ勾ラカケテ罷去ントセシ時一筆ニテ一家ノ哭スルヲ奈
何トイヒシ人有シカハ一家ノ哭何如一路哭耶トテ遂ニ
悉ク其者ノ職ヲ罷メシ事アリ後世マテ稱シテ良相
ノ法則トス然ラハ郡吏ノ治民ノ職ニ堪ヘザル者ヲハ
罪ナシトモ其職ヲ取替ル事何ノ不仁カアルヘキ今郡
吏ハ賤シトモ其牧民ノ職其任甚重ケレハ他ノ手代ヨリハ
卑賤ニアレラハス廉恥ノ心勵シテ召使フ術アルヘシ廉

恥ヲ艱ハサレハ俸祿ヲ多ク與ヘテ盜心生スレハ益ナキ
 ナリ既ニ是ヲ優ニスルニ厚秩ヲ以テシ衣食ニ不足
 ナカラシメ又コレヲ遇スルニ下士ニ準スルノ禮節ヲ以テシ
 廉恥ヲミカシムルニ奸曲賊罪アラシ者ハ人ニ非ス下士ニ準
 スルノ禮節此ハ手代ヲ士分ニ上ケタマヘトイフコトニアラス
 一ツノ仕方ヨリ廉恥ヲ勵マシ人ニ自重スルコトヲ示スル
 術アリ追放永暇ナトニテ貧乏ノ騰ヲ寒ス豆ヲス
 宋太祖ノ法ヲ用ヒテ死刑多シ死刑トイヘトモ

カリツメニモ 牧民ノ職ヲ勤メシ汚ヲ重セラレテ具其仲
 間ノ餘人ニ氣節トイフ事ヲ立サセンタメ切腹ヲ許シ
 タマフヘシ如此クハ平生ノ衣食ハ憂ナク恥ヲモ知リ罪
 ヲモ畏ルヘケレハ是マテノ如クコマカニ疑心ヲシテ猜防
 スルニモ及ハス手ハナシニ諸事委任シテ其成功ヲ
 責ムル術イカ様ニモナルヘシ法令簡易ニシテ人材ヲ
 尺ニサセ賢能職ニ任シテ一切ノ煩擾ヲ去民間
 ノ害ヲ除キ利ヲ興ス一挙ニテ成ヘキ也

問横歛ノ弊ヲ除クト如何曰理財正辭禁民
為非曰義トイフコトナリ一切ノ横歛ヲ除ク事是
ニ心得ヘシ畢竟理財其道ヲ得ス辭ヲ正シク
取ルコト能ワサル故ニ横役ヲカケ民モ迷惑心服セラル
スヘテ小利ニサトキ者ハ必ス大計ニ昧キモノナリ大ナル
所ニテ損ヲスレトモ悟ラサル故種々ノ奸法ヲコレヲ
分釐ノ利益ヲ分ルナリ上へ取ルト下へ渡スニ算數
ノ勘定ヲ遣ハスル類一切除去テ正直ニスヘシ城米

ヲ納ルニモ所代官ノ手代取改メテ時嚴ニコレヲ
吟味スル法アリテ取主ノサレ札改人ノ姓名各
付テ後凶女ニ抜キ替サレヤウニ貫目ニモ成トモ改記
サテ所蔵へ納ル時ハ直ニ吟味シテ納メサセ耗米ノ
重取ニ逢サル仕方アルニ是ヨリ急ニ改ムヘキハ三雜
穀切返シ直段ナリ所蔵納メノ勤義ハ下吏ト百姓
ノ上ノ事上ノ法ニカ、ワラス切返シ直段ハ上ヨリ
立ル法ニ非スマリテハ甚アレキ也畠方取米ニ石五

斗ヲ金壹兩ニ換フル事寛永十四年間ニ始リ
 ラ令ニ至テ俗吏輩金料玉條トシテコレヲ守ル昔ハ
 時ノ米價ヲナラシメテ其時相應ニ立ル定價ヲ今
 米價大抵壹石壹兩ニ當ル世界ニ其法ヲ承用ル故
 上納ノ代方金取米ノ數ニ較フレハ甚少ナリ一百石
 ラ四取ニテ取米四十石トイヘトモ其金口ツカ十六兩
 ニ過ス故ニ既ニ雜穀ノ代方金ヲ取レ上ニ又ニ雜穀
 ラ横ニ課シテ強買強賣ヲシテ贏餘ヲ得ルコトカ

四五兩ナリ其上ノ勘定ニサマミノ無理ヲシテ代方本
 金并ニ雜穀ウリ付代共ニ合シテ二十餘兩ニ過ス
 免ニシテハ四ツ取トイウ名ハアレトモ實ハ一百石ヲニツ
 取ニ取レ二十石ハカリノ取米ノ價ニサマテ過サルコト笑フ
 一キ事ナリニ石五斗之價金壹兩トイフコト何故
 ニ定リシトイウ事ヲ知ラスシテ如此ノ損ヲシテ恥カク
 事ヲスルト見ヘタリ古ノ田制一變シテ夏秋兩稅
 ノ法起リシヨリ天正文祿己前マテハ諸國コトミク

田畠ノ額ヲ定納幾貫幾百文ト称シ米穀ヲ
 納ムルニモ錢ヲ納ルニ勿論其數ノ如ク納メシニ豊
 大閤已来天下ニ統一統ニ石盛斗代トイフ事ニ成テ檢
 地ノ後町段畝步ヨリ出ル所ノ分米ヲ定メ取付ノ
 法大閤ノ定割ハ大抵三分一當代ノ通
 法ハナシテ四ツ取ルヲ以テ率トスヲ以テ年貢ヲ取ル丁當代
 ノ通割也米價ト錢價トノ低昂ハ時ニヨリテ一定セ
 ス田地ヨリ出ル分米ハ天時地利人カノ參ツテ相得
 レハ年ヲ經ルトモ大ナルカワリハナク壹石ノ地ヨリハイツモ

壹石出来ヘキ也然ルラ土地ヨリ生スル穀ヲ主トセス
 シテウリカヘテ獲ル錢ヲ主トシテ稅ヲ定ムルコト甚理ニ
 タカヘリ定納トハイヘトモ時ニヨリテ貫高ヲ上下
 スル事モ有ヘケレ共錢金ハ土地ニ作ラサル物ヲ主
 トシテ貢稅ヲ定ムヘキ謂レナン貫高ヲ主トス時ハ其定
 メシ時ナリ米價賤ケル百姓ハ土地ヨリ取レサル所
 ラ價ヒ米價貴クナレハ公納ノ壹貫ハイツモ壹貫ニ
 テモムカシノ賤キ時ノ半ニ當ル事モアリカタニ不

便利ナル子細アリ故今ノ如ク石高ニハ改メ成
ヘシ穀ノ價ニ貴賤ハ有レトモ壹石ノ地ハイツモ壹
石ト定テ取付スル時ハ公私共ニ損得ノカタオキ
ナ事ナレサスカ大閤ノ英雄石田治部カ才幹
ニテ定メタル法ナレハ中ノ令ノ俗吏ノ及フ一キ所ニ
アラサル也然ルニ石高ノ法ヲ以取米ヲ定メカラ
二石五斗定價金壹兩ヲ百年不易ノ科條ト
スル時ハ即キムカレ貫高ヲ稱セシ弊ニアタリテ石

高ヲ用_レテ詮ナシ不吟味ノ至ナリ慶長元和ノ
比ハ諸國米價甚賤ク京都ニテ壹石ヲ十八
匁ニ換ヘシカ後二十四五匁ニ成ソレヨリダシダシ貴ク
ナリテ寛文己前ニテハ平價四匁ニ下ラセ如クナリ
延宝己後甚貴クナレリト古キ人ノ筆記ニ見ヘキ
上國スラ如此時ハ東國米價ノ賤キ推シハカルヘシ
サレハ伊奈氏ノ當國ニ所代官タリシ時畠ノ納方永錢
取ニシテ米五石ヲ金壹兩ニ換ヘシツモリナリ元和ヨリ寛

永元年マテノ割付ニテ知ルヘシ其後蘆澤伊賀氏
 ノ國賦ヲ掌リシ時ニ及テ金壹兩米四石代トシ寛永
 二年ヨリ十三年マテノ割付見ツヘシ十四年間ヨリ後二石
 五斗代トナリテ今ニ至ルマテコレヲ承用フ二石五斗ノ定價
 今俗吏ノ金料至條トシテ守ル所ノ如ク古今不易ノ
 法タラハ昔トモ一一定ノ法タルヘキニ慶長元和寛永
 ノ時五石ヨリ四石四石ヨリ二石五斗ト三々ニ法ヲ變セシ
 事當時米價ノ稍々貴クナルニ隨ヒテ改メシテ明カ

ナリ但其ム毎年ニ直段ヲ替ヘスレテ十餘年ノ平均ヲ
 以テ定ムル事畠ノ取米ハ田ノ取米直ニ其物ヲ納
 ルト違ヒテ諸雜穀ヲ引クルニ米ニ推シテツモリタル數
 十六ナルヘシムカシノ御功米直段覺書ヲ見ルニ正保
 二年酉金壹兩米三石七斗七升同三年戌米三石
 六斗二升同四年亥米壹石七斗慶安元年子米
 二石二斗同二年丑米二石七斗四升五合トアリテ其
 已後低昂一定ナラズトモ此文ヲ以テ考レハ前ノ三二人

字恐ハ甚ノ誤ニ石ニ至ル者ハ正保慶安ノコ
 米價カクノノ如キハ寛永中ニ石五斗代ト定ムル
 事当時平均相應ノ價タル事知ヌヘシ寛永二
 十年癸未ノ古文書ヲ見シニ金壹兩ニ銀八表カ
 一トアリ然レハ此時ニ畠方ニ石五斗代ニテ八年ニヨリ
 既ニ公損アリシナリマシテヤ正保慶安ノ後米價
 益々貴ク金壹兩ニ壹石餘ト成甚ニキハワカ
 八九斗ニ至レル片ラヤ然ルニニ石五斗ノ畠方定

直改ラ變シタマハサルト当時ノ民ニコソ損上益下
 ノ恩澤難有事ト思タルナルヘシレカシカラフ是
 三雜穀切込ノ法ヨリテオモ所ナリ凡ソ理財ノ事
 此ニ緩テ所アレハ必亦彼ニ急テ所アルト定マレル
 勢ナリ故ニニ石五斗代ニテ民ニ悦ハシメ三雜穀ノ折
 納ニテヒソカニ利ヲトシ取ム所謂朝三暮四ノ術ナリ
 寛永癸未ノ條令ニ種カレウリ付取ニ代金ニ取ラ
 賣納候者アラハ初秋取ヤスキ時合ウラセ金取

侯義無用ニイタシ叔ラレキ物ニ取置直段ヨキ
時分ウラセ金ヲ取可申侯事トノ德音アリ三雜
穀切返シノ事モカ、ル事ニ混シテ初ハ来春ニ至リ
勘定シ民ヲ愚ニセシト見ヘシカ今ハ國用ノ急ナルマ、
其年ノ暮マテニ比皆濟スレハ其奸法ノ迹モツトモ
雨路レヤスレ方偽心勞シテ日ニ拙トハ此謂ナルヘシニ石
五斗ノ賤キ拂方昔ハ百姓サソ難有事ト思フヘケ
レトモ今ハ其賤キカ常ト成恩澤名事ヲ知ラス

却テ雜穀切返等ノ非法ヲ怨嗟スルノミナリ然レハ
ニ石五斗代全ク死法ニテ活法ニ非サルナリ雜穀ノ
切返シハ勿論分毫ノ勘定迄モ一切損下益上ノ
法ヲ用ユル世界ニ獨富方ノ取米代ノ公損ヲシテ
民ニ益ヲツケラレヘキ事トハ取扱フ有司モ心付
スマシテ百姓ノ中上ノ恩澤ヲ知ル者有ヘカラス夫ト
ヘキ百万ノ一二富勘定ノ輕キヲ知ル者アリ
トモ萬民嗷トシテ三雜穀切返ノ非法ヲ怨ル

カ衆キニ勝ヘカラス今其幣ヲ草除センニ一切
 繁密ノ勤定ヲ止メ其本ニカヘリテ取米ヲ収ムヘシ
 二石五斗代ヲ打破リ今ノ米價大抵壹石金壹
 兩十レハ百石ヲ四ツ取ニシテ現米四十石モシ金納テハ
 四拾兩ハ骨折ラズシテ収ムヘシ然トモ今ト昔ト民間
 ノ様子モ違ヒ夫金繩葉等種々ハカリ物モ多ク其
 上久シク輕ク納ム勤定ヲ今理窟ハカリニテ急ニ常
 年ヨリ多ク取ラン事甚不可ナリ故ニ四ツ取テハ

半免ニシテニツ取二十石ナルヘシモ先年ヨリ雜穀
 尙免等ノ地ハソレタケ又免ヲ下ケ壹ツ六分トモスヘシ四
 ツ取ヨリ已上五ツ取六ツ取等ノ地ハ雜穀切返ル
 益ヲ取米ノ代方一見ナリ尤ニ石五斗ノ代大抵
 壹石ハカリニツル故四ツ取ヲ半ニシテ二取トセシゴトク一
 際ニ今マテノ半ヲ下ケテハ百姓コマル故古ノ割合
 ヲ以テ大ニ免ヲヒキクスヘシ畠ハ元来米ノ生セサル所
 ハ石成盛ラシテ米ヲ取コト無理ナリト云人足ヘケレト石

高ト云フ既ニ天下ノ通法タレハカヤウアルヘキ筈ナ
 リ且錢納モ金納モ地白ウリシロカヘテ納ルフニ錢
 モ金モ土地ニ作ル物ニテハナケレトモフレサヘ定額ラ立
 テ取納スルナリ況ヤ米ハ畠ニ無キ所ナレ共畠ノ諸
 雜穀一段ヨリ幾程出来ソレニ准スレハ幾程ニ當
 トイフツモリニテ分米ヲ定メシヤレハ雜穀ハ何ナリトモ
 百姓ノ勝手ニ作ラセ其カワリニ年貢ヲ取米ニテ
 定メ其代方金ヲ納メサスル事サモ無理ニハアラ

サレナリモシ其内ニ雜穀ラ田ノ米ヲ引ケリテ品納ニスル
 トモ又ハ作りタル雜穀ヲ取米ノ價ニ准シテ直ニ品納ニス
 ルトモ各々民ノ勝手次第タルヘキナリ併品納ニテハタワラ
 ノ指ヘ運送ノ費等迷惑スルヲ多クケレハ大カタハ代
 方金納ラ願フヘキナリ如此トキハ取付ラ過半ニ下ケ横
 斂ヲ除クノ名マリテシカモ公納ノ數ハ甚シキ不足ナク
 一切無用ノ虚計ヲ去テ吏民トモニマトフコナカルヘシヒ
 トリニ石五斗代ヲ改ムルコト旧例ヲ変スレドモ改ム

へキ道理アリテ改ルヲヨクニ百姓へ告諭セハ心
 服セサルモノアルヘカラス且是モテ三雜穀ヲ課セシ
 事仕方ハ悪シケレトモ是ホトノ上納ハトカク百姓ヨリ納
 ムヘキ筈ニテ公上ニ無理ノ事ハナサレサル物トイフ事明カ
 ナレハ三雜穀ノ課悉除テモ既ニ公損ナク取米ヲ
 時價ニ准シテ收ム時ハ此外ニ一ツノ惠ヲ布キ玉フヘシ
 今即城米八金納ノ直段金拾兩ニ付二三四俵ツモ
 平均ノ相場ヨリ多ク出サレムツモリナリト承ル是雜

穀ノ切返シヨリハ輕ケレトモ亦横歛ニ近シ金納不勝
 手ナラハ米納タルヘキトイハ百姓イヤトハイフコトナ
 ネトモ道路ノ運賃所蔵前ノ費用等ヲ厭ヒテ
 金納ヲ願フ事ナレハ其年ノ米價亦平均ニテ私共
 三損得ナキヤウニ直ニ勘定タメヘキナリ檢兩ニテ三四俵
 ツ言餘アリテモ一國ヘ加ケテハ太キ益自皇恩不
 ハアルヘケレト多ク知レタル事ナリ今マテ自方ノ勘定
 吉石吉兩ニモ当ルヘキラニ石五斗五升掬也天損カセ

三不似合事也オヨソユルストウラハ取ヨルハ初ナレハ
初ヨリ輕重ナク算用スヘキコト勿論ナリトイヘルモ
今新ニ勸農ノ政ヲ施シタマフニ姑ク是年ノ米價
賣附ヲヤスクシテ民ヲ悅ハセタマハニ石五斗ニ切
上ケラレタ事ヲ忘レテ拾兩ニ一俵ハ得分ラモ莫

大ノ恩澤 義公様己来石仁政ハ感誦ニ奉ル

ヘキ也 義公ノ所將ニ所郡奉行ヨリ上川井下川井等ノ村ニ所賣附
直段ノ事申筋シ状アリ其當テ其直本ヲ見テ其文ニ云
急度申筋候例年之通今日所賣附直段所城廻リ金拾兩ニ概
三十九俵ニ被仰付候当日之平金十四兩三十六俵ニ有之處所慈悲

ヲ以テ如斯被 仰出候間難有所義可奉存候色ト所慈
悲被遊候間隨分農業ニ精ヲ出シ田白田ニ念ヲ入カテ等モ取夫食
之貯申筋有間敷候已上 藤田清介トアリ是モ永久ニ如此平ヨリ賤キ
六月十日

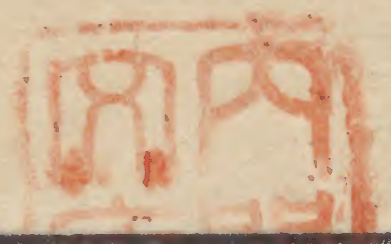
カ常トナリタラハ後ニ公損アルノミニテ民コレヲナレテ徳ト
セサレハ益ナシ 永久ノ法ハ多カラス平均ノ價ニテ收納
シサテ勸農ノ為メコトサラニ一年是ラエルタレテ非常ノ
持恩ヲ示シタマフヤウニ仕タキ事也

問カ役ノ幣ヲ除クコト如何曰有身則有庸トイフ言
ニヨリ遠クハ聖王ノ遺意ヲ考ヘ近クハ 義公ノ旧法

ラ修ムヘシ年貢ト役トハ元来別物ニテ田地ヨリハ既ニ租
庸調ノ三ツラ一ニ混合セシ高免ノ年貢モ出シ且夫
金筋金マテ上へ収ムル上ハ平生ノ雜徭田地ノ高へ
カクヘキ謂ナシ君子ハ勞心小人ハ勞力古今ノ通誼
ナレハ庶人凡ソ身アル者悉ク國ノ徭役ヲ勤メ田地
ノ有無多少ニ管セサル道理ナリ然レハ元祿己前ノ
コトク傳馬配符番歩夫等ノ役高掛リニセスレテ
人ノ面掛ケニスヘキ事其理顯然ナリ今モ村ニヨリテ

コロハシト称シテ田地ノ高ニカマハス家並ノ役ニテ勤
勞所モアレトモ其仕形大簡ニシテ詳密ナラサレハ
其利害如何ニヤアルランコロハシノ所ハ高持ノ大
百姓ハ喜ヘトモ小民ハ悦ハストイヘリ其詮ハタトヘ
家内ノ人口ハ少クトモ田地ヲ過分ニ持テ作ルトハ
ソレタケノ人ナクテハ作ラレサル筈ナリタトヘ小作人ハ渡
置トモ田地ニ付テ人其タケノ分ハ有ル筈ナリト小民
イヘリトイフ是モ尤ノヤウナル説ナレトモ畢竟世上ニ

高掛トイフ事見習ヒテ年貢ト役トハ元来別物
 トイフ事ヲ知ラザル故ナリヨクニ告諭セハ小民ニモ心
 服サスヘキ術アリ田地ノ多クキハソレタケニ年貢工貝ヲ多ク
 納ムレハモバヤスミタル事ナリ其上ニ役ヲ重ニカクハカ
 ラス然トモ高掛ラ面掛ケニ復シタリトモ貧富強弱
 ノ差別ヲ簡ナクテハモトヨリナラザルコトナリ 先王ノ
 令凡差科謂差科ニ役
雇夫之類先富強後貧弱先多丁後
 少丁其分番上役者家有兼丁者要同家貧



單身者閑賦役ニトイヘリ是本朝ノ良法ナレハ今ノ
 世ニモ其心持アルヘキナリ但兼任ノ弊甚シク成テ
 ヲリ民ノ貧富強弱大ニ懸隔スル勢ナレハコレラ処
 スレニ一術アルヘシ大抵田地拾石ガリヲ百姓一
 軒前ト定メコレヨリ作り不足スルハ百姓ノ勤メ甚
 ナレハカマハス二十石モ持タルハ二軒分トシ三十石四十
 石ニモ至ルヲハ三軒四軒トモ定ムレハ身上持高ハ
 論モカタツク也 笠間領ニテハ十六石ヲ百姓一騎前ト定メ三
十餘石モ持テハ二軒分役ヲカクルトイヘリ

サレ共今ノ如ク經界正シカラス上下厚薄ノ地
 名ト実ト相違ヤル事ニテハ田地ノ高ニヨリテ專ラ
 百姓ノ身上ヲ論スル事ハナラヌナリトカク均田ノ
 法アリテ地ノ肥瘠各々其宜ヲ得セシメ限田ノ法
 アリテ漸クニ百姓身上ノ高ニ大際ノ極マリアルヤウ
 ニ成ラスニハ貧富強弱ノ論悉ク行フ由ナリトハスヘカラ
 ス是ハ姑ク置カ役ノ征ハ庶人ノ身アルモノ悉勤ムヘキ筈ノ
 事ナレハ國中一歳人夫ノ惣数ヲツモリ民ノ二十ヨリ六

ナマテ一歳ニ役日幾日ト定ムヘシ勤ノ過シ或ハ不足
 ハ仲間ノ吟味ニテ相互ニ勘定サスル仕方モアルヘシ
 イツレ平均ニ因役ヲツトメ損得カタオキナルヲ無キ
 様專一ナリ古ヘ租庸調ノ法ヲ用ヒラレシ時役日ヲ
 勤メ不足スレハ一日分何程ト定メ上ヘ庸布錢ヲ
 收納アリシナリ今ハ庸調ヲ田租ニ混合シテ年貢
 高ク成タレハタトヘ歳後ノ日数不足ナリトモ百姓ヨリ
 庸布庸錢ヲ上ヘ納メシムル事アルヘカラスサテ五高

ノ徒ハ田租ヲ高クシテ庸調マテモ一ツニ納メントイフ
コトナケレハ末業游手ノ輩モ頭数ノ歳役勤メ不_レ足_レ只
其日ツモリニテ庸錢ヲ納ル事今ノ大工トモノ御普
請_レ方ニ於ケルカ如クナレトシ是マテ仕ツケサ_レ事ナレハ末
業游手ノ輩ハ迷惑ニ思フケレト_レ末業游手ノ者迷
惑シテ田地ヲカ役作ス者ノ役寛キ_レ勸農ノ要術
ナリト知_レヘシ且是マテ高掛ノ役法ハ鰥寡孤獨廢
疾ノ徒トイヘトモ苟モ田地ニ持居_レハ其持高ノ割心

シテ夫役ヲ勤サス_レ之へ身力役ニ赴ク_レト能ハス困窮ナク
ラ錢ヲ出シテ人ヲ雇フ_レナリ人ヲ雇フ_レト屢ス_レハ錢ヲ多ク
費ス_レエハ寡婦孤兒ナ_レトニ門戸ヲ立タル百姓分_レ夜
中ニモ後家ナ_レト松明ヲ燃シテ鄰村へ配符ヲ傳送ス_レル
事モナリトイウ哀ナル事ナリ上ニテハ民ニ孝弟ヲ教_レテ施シ
玉ヒ度思召_レトモ高掛ノ役法ニテ人夫ヲツカ_レ時ハ家
老親アリトテ役ノズルニハナシ_レ父母ノ喪ニ遭_レテモ服中ハ勿
論忌中ニテモ役ヲアツル事ナ_レト孝弟ヲ教_レル事ニ行

届カサルナリスヘテ民ノ教ト云ハ上ヨリ談義僧ノ娼
講釋スル儒者ヲ立テ四唇五経ヲサヘツテ道トイフ
モノヲ吞込マスルコトハ非ス地官郷吏ノ治方亦平生
ノ徭役公事ナトノ中ニ自然ト民心ヲ感服スヘキ仕
方ヲ寓シテ风俗ヨロシク孝弟行ハル様ニスル莫
ナリ孝弟力田ナトノ賞莫ニモ凡有身者必有役トイフ
世界ナラハ纔ニ其身年中ノ役ヲユルンテモ過分ノ恩沢
ナルヘケレハ上ニテハ費スニテ惠スル事自由ナリ今テノ如

田地ノ高アル者ハ分リ役ヲツトムル事ニハ高少キ者ノ役ヲ
ユルストモ恩澤ニアラサルナリ夫役ヲ高裁ケニスルコト貧富
ヲ均クスル法ニ似タレトモ今ノ勢ニテハ徒ニ未業游手ノ者
ノ勝手ニ成力田スル者ノミ困ム仕方ナレハ決シテ古法ノ如
面掛ケニ復スヘキナリ面掛ノ役ハ義公ノ旧法ニテ即チ是
聖人ノ遺訓ナリ周礼ニ司徒ノ職邦ノ教法ヲ建テ国
中及ヒ四郊都鄙夫家ノ数ヲ計ル事ヲ掌リテ其貴
賤老幼癡疾ヲ辨シ凡征役ノ施舍又為ス又郷師

郷

之職以國比之濂以時替其夫家衆寡辨其老幼貴
 賤廢疾馬牛之物辨其可任者與其施舍者掌其戒
 令糾禁聽其獄訟マタ郷大夫職ニ以歲時登其大家
 之衆寡辨其可任者國中自七尺以及六尺正義曰七尺謂年二十
 野自六尺以及六十有五正義曰六尺謂七五皆征之國城郭中晚
之以其所君復多後少早賦稅而其舍者國中貴者賢者能
 者服公事老者疾者皆舍以歲時入其昏トイヘリ
 我先王ノ令ニシレ凡男女三歲已下為黃十六以下為小

廿以下為中其男其一為丁六十一為老六十六為耆ノ
 制アリテ賦ヤリテ賦役ヲ課スルノ必是ヨリ差別スルナリ
 廿一ヨリ六十歳マテテハ正丁ト稱シ十六已上二十已下
 ラハ中男ト稱シ老六十一ヨリ殘殘疾ノ人廢疾並為次丁
六十五マテ次丁ハ二人ニテ丁正丁ニ同シ庸法調中男ハ四人ニテ
 正丁一人ニ準ス是調法ナリ中男ノ作物サテマタ一戸ノ主
ト云ハハ度ナリトイヘトモ官職アル人ノ耆老篤疾小子寡婦ヲハ不
 課戸ト定ムルナリ年數ノ事周礼ト我 先王ノ令トナ

異アレ共大意同シ事ナリ今和漢ノ制ヲ斟酌シテ詳ニ
 役法ヲ定メシハ二十歳已上六十已下ノ正丁ヲ主トスルモ
 勿論ナレヘ先王軍役ノ制ニ年滿六十免スト見ヘ周礼
 田中ハ七尺周尺ノ七尺今ノ五尺七寸五分余ニ當ル者ヨリ是マ
 テ斗ルナリ昔ノ制ニ七尺トハ年二十ノ定額ナリ
 ヨリ六十マテ征役ニ後フノ制ニ符合スマタ十六已上ヲ
 中男トシ六十五已下六十五ヲ次丁トスル制ト野ハ六尺五
 ヨリ六十有五マテ征ストイフ父ヲ考合スレハ雜徭ノ輕
 レテ骨折レサル事ヲ扱テ中男次丁ノ任トシテ二人ニテナリ

共四人ニテナリトモ一ノ正丁ニ准スル定メ如何様ニモ
 土俗人情ノ宜ヲ揆リテキワムヘキナリ礼記ノ玉
 制ニ八十ノ者一子不從政九十者其家不從政廢
 疾非人不養者一人不從政父母之喪三年不從政
 ノ文アリ先王古ヲ誓ヘ因テ令ヲ定メ玉ヒシニ凡年八十
 以上ト篤疾給侍一人九十二人百歳五人戸令ニマタ
 見エ
 凡遭父母喪並免期年徭役賦役ト見エ
 漢宣帝地節
 四年詔諸有
大父母父母喪者勿繇吏使得収欵送終凡其子道トヤレ即此意ナリ
 礼記ノ三年不從政トレラ令免期年絶後トアルハ三年ノ喪本朝ニテハ服一

周期ト定メ

レ故ナリ 此外ニ孝子順孫等ニ褒賞ヲ為其身ノ徭

役ヲ免シ物ヲ賜リタルヨリモ惠ホキルヲナリトカク徭役ノ法高

掛ラヤメテ面掛ニ復スル時ハ右ノコトヲ仁政モ貴ナクテ

行ハル事ナリ漢高祖七年ニ詔シテ民産子復勿吏

二歳ト定メ章帝元和二年ニ諸懷姙者賜貽養

穀人三斛

漢ノ三斛ハ今ノ二斗七分九合ニタハ撮余ナリ

復其夫

勿算

口賦錢トテ人コトニ錢百

一歳トイヘル是亦保息ノ仁

政力役ヲ寛スルノ中ニ寓スルナリ延喜式ニ凡人生五男

成正丁免父ノ課役虽一人闕猶從免除ト云事アリ

是多ク育子者ノ徭役ヲユルメテ民生ヲ蕃クスルヲ勸

一ニ恩惠ヲ布ク徳アリ一ニ課丁ヲフヤスノ益アリ 先王

ノ良法人テニモ行フヘシ吏治ノ仕方ニヨリテ孝慈ノ教

成ルコトモ面掛ノ役法ヨク行ハル中ニ在リト知ルヘシ又

延喜ノ主計式ニ凡諸國所申戸口増益ニ不得以

不課為功トアレハ今人別育子ノセキ事スルハ是ニテ少

レ目ヲサマスヘシイカニ金穀ヲ費シテ人ハカリ殖シタ

共大半游惰ニ流レテ不農不課ノ民而已ナリ又國
 計ニ於テ何ノ益ノ有ヘキ悠々トシテ十年二十年ノ生
 聚ヲ待タンヨリ今ノ急務マツ現在ノ人数ヲ用ニ立
 仕方アリタキ亦高掛ヲ改メテ面掛ノ役トシ且農人
 ヨリハ役日ツトメネハ不足ノ代ニ上ヘ庸錢ヲ出スコト免
 除シ未業游手ノ者ノミ役錢ヲ數ノ如ク收ルコトアリ嚴
 酷ナル様ナレトモ少シモ無理ニアラス周礼載師職ニ
 凡宅不毛者有里布凡田不耕者出屋粟凡民
ミタラ為屋

無職事者出夫家之征トイヒ閭師職ニモ凡無職
 者出夫布トイヘリ是ニヨリテ論スル時ハ游惰ノ輩
 ハ懲ラシメノ為ニカ田ノ者ヨリ其征役ヲ重クスヘキ
 更明ラカナリ後世ノ法ハ農民ノミ賦後ニ困ニテ游
 手浮浪ノ民ハ悉然トシテ都テ不簡更彼ト此ト其
 得失智者ヲ待タスニテ知ヌヘシ均シク是ノ百姓ニテモ
 寺社領ノ民ハ古ヨリ徭役ヲツトノヌ和漢トモニ此ノ如ク
 ナレトモ是亦處置アルヘキ更ナリ
延喜式ニ凡神寺封丁不
 得點衛士仕丁亦抗州有

支カト云へり。明人ノ登。虞謙洪武未。杭州府知府。嘗建議。僧道ハ民之蠹。今江南寺院田多。或數百頃。而徭役未嘗及之。貧民無田。往々為徭役所苦。請為定制。僧道每人田無過十畝。既ニ寺社餘田以均平民。初是之。己而謂非旧制。遂廢。

ノ封戸タレハ軍國人夫金筋金保傳馬歩夫等出
スマシキ支ハ勿論ナリ。但ムカシハ寺社領ハ守護不入テ
平常一切ノ政令ト地頭人ノイラハサル所ナリ。國主ノ民ト
各別ナルヘケレトモ。今本藩ノ制寺社ハ主司タルモノトイヘ
トモ亦有身ノ政教禁令ヲ受テ其民ノ詔獄ヲテモ
コレヲハム上ヨリ治メ玉フ時ハ配符蓋ニハ寺社門前ト

イヘトモ役ニ從フヘキ道理顯然ナリ。尋常高持ノ
百姓ハ夫金ヲ納メ且庸調ラ田租ニ混合セテ高免ノ
年貢ヲ出セトモタ。城郭ノ普請ニ役セラレハ汁リニテ
田畠ノ川除普請用水溜池道橋ノ支ホハ己々カ身ニ
掛リタル支ナレハ役ニアタリテモ無理トセス。然レハ其在所
々ノ田畠ヘカリタル普請等ニハ寺社領ノ民トイヘトモ
土地ヲハカリテ召使フヘキナリ。近キ地ノ定メニ百姓ノ御蔵
入ノ地ト寺社領ト兩方ヲ作ル者ヲハ寺社領ノ人別ニ

組入ル、様ニセラレシ所アリト云イカナル有司ノ心得
ニヤツモ農民ノ力役ヲ寛ルクスルヲ計ラスレテ後
不課ノ民ヲ増ス憫笑スヘキ莫ナリ又村々ノ罷民
衰惡過失アレハ百姓ニ不似合テ閑戸ナト申付或ハ
手ニヤウ或ハ禁獄スレトモトヨリ恥カレキ事トモ思ハ
ネハサレモ懲リテ改ムル心ナシ終ニ村拂カ四郡追禁
ニ成ル莫ナリ其ウキニ一向ニ教訓スヘカラサル者ノ
ミニテモナク処ロニヨリテ無據居村ヲ拂フモアレトモ

行先キニテ活計ナケレハ其處ニ居住セス不得止他
国へ出テ人別損スルナリ是ホノ類ハ古へ後罪ノ
制ヲ再興シテ國ノ役事ニ苦使シ其者ニ恥ラカ、
セテ改ムル心ヲ生シサセ且役ニツカフテ良民ノカ行
ヲサツモ弛ルムヘキ莫ナリ周礼司赦ノ職掌萬
民之衰惡過失而誅讓之以禮防禁而救之
凡民之有衰惡者三讓而四討三四討而士加明刑
恥諸嘉石役諸司空其有過失者三讓而

罰三罰而歸於国土トイヘ大司寇ノ職ニ以国土粟
 教罷民兀害人者寘之国土而施職事為以
 明刑恥之其能改者反于中国不齒三年其不
 能改而出国土者殺トイヒマタ以喜石平罷民兀
 萬民之有罪過而未麗於瀆去而害於州里
 者桎梏而坐諸喜石役諸司空重罪旬有三日
 坐期役其次九日坐九月役其次七日坐七月役其
 次五日坐五月役其下罪三日坐三月役使州里任

之則宥而舍之トイヘリ此法ノ意ヲトリテ用ズル時ハ

鄉村ノ罷民衰惡過失アル者閉戸禁獄追放

等ノ代リニ徒罪ノ服ヲコシテ著セ古ハ衣裳ニ畫クノ制
刑即チ此意ナリ喜石ノ

フハ此邦ニナキ
フナレハ置テ論ス髮ヲハ髻ノキワヨリ切テ形ヲ平民ニ異ナラシメ

恥ヲアタヘ且逃走ヲ防クノツドスラレテ便アル所ノ役人ニ

預ケ置並請或ハ荒地開墾或ハ馭場ノ夫役ニ驅使シ扶

持米ヲハ郷黨親戚ヨリ出サシメ咎ノ輕重ヨリテ月數ノ多寡

ヲ定メ數ノ如クコレヲ役シ在所親類ヨリ訴訟アル時之

ラ宥免シ萬一在所ノ中其所ヲ欠落セハ早速召
捕成敗セシムヘシ数多人徒罪人出奔セリトモ一々捕
誅スルハ煩ハシク且行届サル様ニ思フ人モ有ヘケレト誅
一以警告百トイフ莫モアレハ其初ラサヘ嚴ニ其後ハ自
然ト出奔スル者ナカルヘシタトヘ出奔シタリトモ異形ニシテ
見咎ヤスケレハ難ナク追捕セラレヘキナリ如此時ハ教化モ
立易ク良民ノ苦ラ休メカタク利益多アルヘキ莫ナルニ
是マテ民ヲ治ムル者士大夫ヲ遇スルノ礼ヲ以テ庶

民ニ閉戸遠慮ナト申付恥ラアタヘナラシムルト莫ク禁獄
トテモ無用ニ骨休メラサセ一タト所ヲ拂ヘハ終ニ立返ラス
人別ラ損スル類不学無術ノ至ナリ返ス返スモ役法
ハ高掛ヨリ面掛ニスル事利多シサレトモ法令簡易ニ
テ賢才職ニ任シ是マテ一切煩擾多事ノ弊ヲ除去ス
ハ面掛ニテモ徭役多ク民カラ寛スル事能ハスト知ル
ヘシ役法既ニ改マレバ未作游惰ノ民ハ困苦迷惑シテ
獨リ農人ノミ悦フヘシ農人ノヨロコブ内ニモ少分ノ高持モ

大分ノ高持モ損得ノ談論急ニ止ヘカラス此機會ニ
 乘シテ兼併ヲ破ルノ術ヲ施シタキ事ナリ
 問兼併ノ弊ヲ除ク事如何曰仁政必自經界始ルト云ヘリ
 民獨リモ僥倖ニシテ幸ヲ獲ル者アル時ハ亦必ス不幸ニシテ
 其弊ヲ受ル者アル道理ナリ幸ヲ得ル者ハ後ニ驕奢ニ流レ
 弊ヲ受ル者ハ坐ナカラ困乏ニ至ル民之多幸國之不幸トイ
 ヘルコト有國有家者不患寡而患不均トイフコトヲハ會
 得シテ先ツ均田ノ法ヲ行ヒテ負ヒ高ヲ改メ繩ノノヒツマ

リ且取付高下ヲ吟味シテ各其宜ニ叶ハシムヘシ次ニ
 限田ノ法ヲ立テ貧富共ニ安カラシムル術アリ均田限田
 何レモ要務ナレトモ是ヲ行フニ緩急ノ序アリ均田ハ
 此方ノ規矩サヘ立ハ速ニ法ヲ以テ正スヲ成ヤスコレヲ急
 ニスレハ其害アリ漸々ト勢ヲ以テ驅ルヘキナリ此ニツノ
 者行ハルハ兼併破レテ百姓大ニ悦フヲ掌ヲ指
 カコトシ善人在上則國無幸民トイヘリ僥倖ノ民ノミ
 咨嗟怨嘆スレトモ寡ハ衆ニ勝フ能ハス且初ヨリ

此方ニ無理ナル仕方ナク畢竟民ノ為メ貧富共永
 久安穩ナラシムル道ナレハ終ニ服セスレテ叶ハサル莫
 ナリ官仲カ伍鄙ノ初政ニモ相地而變征則民不穡
 田疇均則民不憾トイヘリ牧民ニ志アル人思ハサルヘケンヤ
 問兼併ヲ破ル事固ヨリ良策ナレトモ近年伊勢ノ
 藤堂氏ニテコレヲ行ヒ大ニ百姓ノ乱ヲ激セシ莫面ノ
 アタリ聞及フ所ナリ何程ヨキ莫ニテモ人心ノ騷動ス
 莫ハ遠慮アルヘキカ曰吾子其一ヲ知テイマタ其二ヲ

知ラス苟非其人道不虛行トイヘリ周礼周公是
 ラ行ヘハ太平ヲ成シ八百年ノ基ヲカタクス王莽王
 安石纔ニコレヲ用ヒテ遂ニ天下ヲ乱ル顧フニコレヲ用
 ルニエニ何如ク其カ聞カ所ハ藤堂氏ノ吏ノ兼併ヲ
 破ル莫アマリ卒尔ニナセシ故貧民初ハ悦ヒサレトモ貧
 者ハ愚昧多ク富者ハ狡黠多キ事定マレハ勢ナク富民
 謀ラ合テ金錢ヲ閉テ出サス借貸道塞カリシカハ貧民
 マタスリキリテ困リタルニ富民次其産ヲ奪回ハレテ怨望セル者

トモ此機ニ乘シテ貪民ノ愚者ヲ煽動セシカハ遂ニ乱ラ
セシトナリモトヨリ深ク君長ヲ怨テ怨入骨髓ホヨリ更
ナラネハ木タ幾ナラスシテ乱平キタル跡ニテ或ル旅客其土
人ニ前日ノ乱ハ如何ナル更ニ天起ルハ問フニ全ク左程
ノ更ニテモ無キニ心得違ニテサワキ立今ハ後悔ナルト答ヘ
トイヘリ此説ノ如キハ其吏兼併ヲ破ルノ計善キト心
得前後ノ始末行届サルヲアワレ残念ナル更ナリ又大坂
ヨリ一谷生来テ癸廬ヲ訪ヒシ者有レカ其雜談ニ

近比藤堂殿ニテ何某トカヤ云一聚飲ノ臣ヲ召抱レ
專損下益上ノ改ヲ行ハレシニ付一ツノオトシバナシヨリ何某
途中ニテ家老ト藤堂仁右五門ト云者ニ逢シニ礼辭オ
リテ後拙者儀ヲ如何御評判被ホ候哉ト問ヒシニ仁右門
答テ國中ニテ其評更ラハ佛ナリト云ト云ケレ何某喜テ謝
シテ云コレコレハ御アヒサツナルヘシト仁右五門カ云左非ス町人百
姓共其評ノ姓名ヲ聞ク手ヲ合セテ南無阿弥陀佛
南無阿弥陀佛トイフ云レトソ是ハ妻卷ノ小説論スル

ニモ是ラモモ其聚歛ノ臣ヲ用ズルノ事ハ一定ナルヘシ
 既ニ聚歛ノ臣ヲ用ズルハ其兼併ヲ破ルモ安民ノ
 莫ラハ第三義トシ最初ニヒ絶テ折結テ利ヲ上ヘ取ル
 ヤウニセシ故民モ怨ミシナルヘシコレハ行ヒタル人ノ過ニシテ
 兼併ヲ破ル莫ノ患ニキ證據ニ引ヘカラスコレニフリテ
 兼併ノ破ルヘカラスト云フハ所謂熱羨ニ懲リテ冷殺
 フ吹クノ類兒童ノ見ニ異ナラズ最初ヨリ上ヘ利ヲ収メ
 不_レ以_レ民ヲ安シスル為ニ行ハ何ノ妨カ有_レキ昔前漢

ノ世其患トスル所諸侯王ノ強大ニ過タルニ在リ時ノ秀
 才賈生治安ノ策ヲ文帝ニ献シテ地ヲ割キ割ラ定メテ
 齊楚趙等ノ大国ヲ分テ若干国トシ齊悼王趙建王
 楚元王ノ子孫コトビク次ヲ以テ祖ノ分地ヲ受サセ地盡
 テ而シテ止其他ノ国分地衆シテ子孫サキ者建以為
 国空而置之須其子孫生者奉使君之諸侯之地其
 削頗入漢者為_ニ其子孫ヲ封シ又ハ其疆界ノ不足ヲ償
 ヒ遣_ル一寸之地一人之衆一天子亡所利焉誠以定

治而已故天下咸知陛下之廉亦謂之曰文帝イマタ
 用スル吏ヲ果サス賈生之程ナク死セシカハ文帝ノ太子
 景帝位ニ即キ晁錯ノ策ヲ用ヒ過急ライヒカケテ之バ
 諸侯ノ土地ヲ削ル賈晁共ニ漢ノ為ニ忠臣タル事ハ一ニテ
 晁錯カ才術辨智亦賈生ニ亞クヘケレ共其為人隋直
 刻深ナルマニ法ヲ用ズルヲ過酷ナリ且其削タル土地ヲ
 漢ノ郡縣トナセシニヨリ諸侯大ニ怨ニ奸臣ヲ誅スルヲ名
 トシテ吳楚七國謀反兵ヲ起セシナリトカクニ諸侯強

郡

大ニ過キ驕奢不法ヲ以テ治道立カタク故武帝ノ
 世主父偃カ策ヲ用ヒテ推恩封ヲ下シ大國ノ諸侯
 ニ子ノ身ヲ取立テ悉ク分地セケル骨折スレテ諸侯ノ
 勢カハソキ漢ノ自由ニ治メラレシナリ是主父偃カ智晁錯
 ニサリタルニハアラス晁錯カ吏ニ見ヨリシテ其跡ヲ踐マス賈
 誼カ故智ヲ用ヒテ一寸ノ地一人ノ衆モ天子ノ方ヘ負リ
 取ラスレテ諸侯ノ身上ヲサハキ故諸侯モ怨ムキ様
 ナク存分ニ分地シテ勢ヲ分チタルナリ諸侯ノ強大ナルスラヨク

其道ヲ以テセハカリノ如ク其勢ヲソクヘシ況ヤ豪民ノ兼
併ヲ破ルラヤ本朝ニテハ大化ノ政兼併ヲ破ルノ祖トス
ヘシ義公ノ時兼併ヲ抑ヘ玉ヒテ莫アレトモ當時其ハ
弊イマタ今ノ如ク甚シカラサル故其莫モ亦大造ナラス
今ヲ兼併ヲ破ラニ先實生カ一寸之地一人之衆モ
ト所利ヲ為コトコトクノ寛永二十年威公ノ仰出サレシ在
所ノ善惡ヲ見分高下無恙様ニ可取扱元祿元年
義公ノ仰出サレシ富者ハ益富貧者ハ益貧甚不

可然トノ上日ヲ主トシテ永久農人ニ利アル様ニ告諭シ
寸歩ノ地外合ノ高タルトモ上ヘ打出シテ取玉ハス打
出シ高タケ悉クニ民ノ惣高ニ平均シテ取ルメ玉フ事ヲ
ヨク明カニ示シ玉ハ四境ノ内誰アリテカ妨ラナスヘケンヤ

問韓非カ書曰今世之学士語治者多曰與貧窮地
以實無資今夫與人相善也無豐年旁入之利
而獨以完給者非力則儉也與人相善也無饑饉疾
疫禍罪之殃獨以貧窮者非侈則惰也侈而惰者

貧而力而儉者富今上徵歛於富人以布施於貧家
 是奪力儉而與侈惰也而欲索民之疾作而節
 用不可得也トイヘリ此說ノトキハ富民ヲ困メテ貧民
 ニ得サスル_トモ利害如何アレヘキ 日是此謂_ニアラズ田地
 高買買民ノ自由ニテヨリ富者阡陌ヲ連_レトモ貧者
 無立錫之地故ニ當時學士ノ論ニ与貧窮地以實無
 資ト云フ_トモ起ルナリサレ共韓非カ云ヘル如ク同_ニ百姓ニ
 同_ニ程租稅ヲ出_シテ外_ニ餘計ノ得分モナク餘計ノ目見

へ名物入モナキニツハ貧一ツハ富ハ力儉ト侈惰トノ差別
 ナリ一概ニ有餘ヲ損シ不足ヲ補フヲ天ノ道ト心得テ
 カ儉ノ者ヨリ取上ケテ侈惰ノ者へ與フル_ト甚埒モナキ
 仕方ナリ夫_ニハ向後タレモ侈惰勝手ニ成テカ儉ハ益ナシ
 トノ骨_ニ得_ルヲ_レ韓カ譏_ル所_ニ當_レリト謂_フヘシハ富民ノ
 骨折テカセキタタ_レ金錢ヲ買得_ル田畠ヲ貧民侈惰
 ニテ破産センモノニコレヲ与ヘヨトイハ_レ誰カ合點スヘキ某カ
 所謂均田ノ術ハ左ニ非ス持分ノ多クハ其_レ僂_ニ置有

高ノ上ニテ帳面ト畝数ヲ引合セ収獲ト取付トヲ考合
 セテ高ト免トヲ均ケシ今其富共ニ損得ナカラズルヲナリ元来
 檢地ト云吏アルモケ様ノ吟味スルヲナリ当国ハ大閤ノ時文祿
 三年ニ檢地アリテ後十一年ニシテ東照宮佐竹ヲ秋田ヘ
 逐玉ビシ時慶長七年壬寅再檢地アリ其後威公
 始テ水戸ニ封セラレテシハテタアリテ寛永十八年辛巳ニ又
 檢地セラレタリ上ノ慶長ノ檢地ヲ去レテツツカ四十年ナレニ
 辛巳檢地ノ條令位違石盛違カ不_レ高心ヲ付ヘキ其見

ヘキ_レ況ヤ寛永ヨリ今ニ至テ殆百六十年威公義公田畠
 賣買ノ制條壞レテヨリ不_レ井高ノ奸アルハ切論ムカシト上
 田上白田今テノ下田下白田ト成下田下白田布テ今テハ上田上
 白田_ニ当_ル類_カハ位違石盛違イクラトイフ數ヲシラス吏_カ是
 者_カ是ヨリ手ヲ下ス_ルヲナク後ニ紙上ノ虚科ヲ守リ取付
 ヲ下ケテ貧民ノ救ヒトスレ共其免ノ下ケタル地イワカ富田民
 ニ兼併セラレシ共是ヲ檢ス_ルナシ埒モ無キ吏ナリ今富
 民ノ餘計ヲ先_ニ奪ハントモスレテタ_リ貧民ノ地ナク高ヲ

是下手芽ノ支
 均田ノ支アリシニ富
 民ノ餘分ヲ先奪
 ハントロレニヨリ支
 ハカトラスト開及ヘリ
 サモアラハイカラカ
 支行ルヘキマ其後
 如何ナリケンキマス

大業

除キ玉フヘシ除キタル跡ニテ川欠白打ニテモナク土地ノツマリ
 タル支如何穿毀金ニテ其初高買買ノ際ニ奸アリシ事
 明白ニ白状若吟味シ其後ニ富民ノ高ナシノ地ヲ檢シ
 檢シテ高ラ盛付ヘシ明律ニ凡ソ欺隱田糧脱漏版籍者
 一畝至五畝笞四十每五畝加一等罪止杖一百其田
 入官所隱稅糧依數徵納ストイヘリ是隱田ノ支ナリ
 マタ若將田土移坵換段那等則以高作下減牘糧額
 及詭寄田糧影射差役并受辜者罪亦如之其
 如上欺隱田糧笞四十

田ハ改正收料当差トイヘリ是ウフセ高オイ高ノ支ナリ隱
 田ラハ其田土ラ没官シテ其隱セシ多ク少ニヨリ笞杖ノ刑ニ
 行ヒ納メサル稅糧ヲ數ノ如ク徵納セシムルナリサテ高ノ又
 キシラハセツライツシタルハ隱田ノ科ニ准シテ笞杖ノ刑ニ處
 シ田土ハ没官ニ及ハス其持主ヘスヘ置ウフビタル高ヲ
 ヘラシウフセタル方ノ高ヲ増スニテ支スムフナリ今田白田
 改正スルヨロシク此法ヲ用スヘシ但ウフセ高ウフビ高ノ
 支百姓ノ相對トハ云ヒナカラ高ヲ減シタル者ハ隱田同

大業

様ノ地ヲ持テ年貢ヲ少シ出シウフヒ高シタル者ハ王地ニ
 ナキ税粮ヲ償フエニ公納ノ額エイツモ減セサル様ナレドモ
 畢竟土地ニナキ税粮ヲ償フ故後ニ散田ト成免ノ折
 ル、莫ナリ其免ノ折タル事ハ何故トイフニカタハニ隱田
 様ニ作取スル高ナレノ土地持者アルナレハ年数ヲ考ヘ
 カタクニテ免ノ引タル分ハカタハヨリ追テ徴納セシメ
 テモ無理ニアラサルナリ是マテコソ細カニ行届カストモ田
 地ノ人クルヒハ是非改正アルヘキナリ扱又永代賣買ノ證

又ラ渡シノ実ハ質ニ置タル心ニテ毎年利息ヲ拂ヒ又
 年工員諸役ヲモ置主ヨリ辨納シ取タル者ハ作取ニシ
 莫公義ニテ^頼願納賣トテ甚レキ嚴禁ナリ本藩ニテモ
 幕府ノ法ヲ承用シ玉フヤ貞享ノ比ヨリ寛延ニ至
 テ數々停止セラレタリト聞ク幕府ノ法ニ永代賣買
 并頼納賣ハ其田畠トリ上ケ当人過料加判名主役義
 取上ケ證人叱リナリト云永代賣ハ本藩ニテ制禁ナケレハカク
 別ナリウフセ高土地没官シテモヨリレハモ近世ニ至リ凡賣

買スル程ノ者其間好キハ稀ニシコレヲ取上シハ没官
 セサル田白田ハ少ナカルヘシ没官シテ後宜ニ隨ヒ授ケ渡フニトナ
 ラハ其通モシ左様ニスル事煩擾ナラハ明律ノ如ク其科ヲ
 改正セルニテスムヘシ頼納賣ノ質地ハ其数少ナケル幕府
 ノ法ノマ、取扱テモ可ナルヘシスヘテ田畠ノ混乱ヲ改正ニシテ
 經界整理セシムハ是ニ賣買スル支ヲ許サズ不得已
 賣買スルモノ有ラハ先王ノ令ニ并ニ成義ニ公ノ制ノ
 如ク所部ノ官司ヘ申條ヲ強テ後ニスルスヘシ宋明

ノ法ヲ用ヒテ契ニ稅スル式ヲ立テ奸ヲ防クモ亦可ナリ
 經界既正シキ内ハ古今取付ノヨキ程ヲ考ヘ汝シク民ニ
 スルニテ常免ノ法ヲ行フヘシ取付ノ法ハ本多佐台徳
 院殿ヘ告奉リシ所ノ如ク百姓一年ノ入用夫食ヲツモラ
 セテ其餘ヲ年貢ニ取百姓ハ財ノ餘ヲ又ヨフニ不足キヤ
 ウニ治ムヘシトカク自身耕作ヲ勤ムレハ年貢出シテモ有
 餘ヤリ人ニ預ケ作ラセテモ餘レル利ナキ様ニシテ人々其
 カニ食マシムル支奉テ務ル要術ナリ兼併禁セサル

う千ハ常免ニテモ徒ニ僥倖ノ資ト成テ民ニ益ナケルハ兼
 併テ破リテ後ノ常免ハ甚恩澤トナル莫ナリ常免ニシ
 テ百姓ノ力儉次ニテ如何様ニ富ミテ倉廩満テ衣食
 足ルモサレモ餘計ニ取ルナク百姓モタマレ豊年
 ナトイフ事ナクマク田地ハ割ニ合ヘトモ其身ノ侈惰
 ニヨリテ貧ニナル者ハ少シモ免ラ下ケス此時ハ農ヲ勸
 メストモ農ハ自ラ務ルナリ是均田ノ妙術ナリ
 問限田ハ如何曰豪民ノ執カニ乘ジテ際限ナシニ田地

ラ買取事小民産業ニ困ム基ナレ古人モ限民名
 田ト云儀アリ急ニ禁シテコレヲ取上ントスレハ行ハレ
 カタキ故タトヘ限制ノ高ノ外買フ能ハサルヤウニスレ
 ハ此後富者出来トモ大分ニ田ヲ專ニスルナラス是マテ富
 者ノ子孫モ盛衰ナキヲ能ハサハ身上衰フルニ隨ヒ次
 弟ニ賣ヘラスヘシ限制ヨリ多キ高ヲ減スルラハ勝手次
 弟ニユルニ限制ヨリサモ餘計ニ増スモ禁スル時ハ
 数年ノ後次第ニヨテ程ニ成ルヘキトナリ是民ヲサワカ

サスレテ限田ヲ為ス夏宗ノ獲老泉明ノ丘瓊山カ説
尤善トスヘシ然レ共畢竟民ノ過分ニ田畠ヲ求テ膏
ノ法行ハルハ兼併ノ奸ヲ逞クスル事能ハス常免
ノ法立テ不重不輕ノ稅ヲ徵サハ自身耕作スレハ
餘アレ共小作人へ渡シテハ分ツヘキ花利ナシ自身ニ耕
作シテハ人カニ限アリ奴婢ヲ蓄フルトモ百姓ヨリ出ル奉
公人カシ他所ノ氓ヲ招集スルトモ高ノ知レタル夏ナリ
ガミノ得分ニテ小作人へ渡サントスルトモカ役ノ法改マリテ

頭數ニテ役ヲ勤メ高持ナリ共役フヘス小作シタリトモ
役ヲノカル、夏ナキハ人ニ出精シテ田畠ヲ買求ル心ニ
成小作人カタク豪民モイヤナカラ田地ヲ減スヨリ外ナシ
是ヲ漸クニ勢ヲ以テ駈ルトイフナリ三国ノ時魏ノ公君慈
燉煌ノ大守ナリ郡在西陲以表北隔絶曠無
大守二十歳大姓雄張遂以為俗前大守尹奉等
循故而己無疥匡革慈到抑挫權右撫恤貧羸
甚得其理旧大族田地有餘而小民無立錫之土慈心

皆隨口割賦稍、使其本直トイヘリ郡守ノ郷ヲ用ヒ
 ヤウニテ人君慈カ如キ事イカニモ出来ヘキ事今兼併ノ
 子孫田地ヲ持餘シテコマル類モアリ小作人ハ高役ナキヲ利
 スレトモ自今以後ハ役法改正アレハ人数不相應ニテ
 手餘リノ田地小民ニ割賦シテタシトシ其アタヒヲ償ハ
 スル仕方イクラモアルヘシ是ハ貧富共ニ安シクテ各々農
 業ヲ勤ムル術ナレハ均無貧和無寡ト云道理ニ叶ヒテ
 百姓ノ困究直リ人別ノ不足モ多クナル勢ナリサテ又農

業ノ昏ニモ農夫タル者我身上ノ分限ヲヨクハカリテ
 田畠ヲ作各其分際ヨリ内ハホシテ以テヨシトシ其分ニ過
 ルヲ以テ甚惡シトス其分限ヨリ多ク田畠ヲ作ル事
 ヲ貪レハ縦令耕作ノ法ヲヨクシリテモ人カタラス其法ノ
 コトクイトナムトモナク耕シ種ルトモ必時ニラクレ物ノ
 比自土地ノカラズスフ能ハサルモノナリトイヘリ然レトモ知
 足者富トイフヲ老子コソ説ハレタレ夫々愚民欲
 ニ際限ナク老子ノ如ク是ルヲ知ラシムトモ決シテ能ハ

此所ナレハ有司ヨリ人カラ量之制アルヘキ事
 問均田限田ノ制立テ兼併破レ時ハ人々其力ニ食ニ
 テ凡俗勤儉凶年ニ饑寒ノ患ナキヤウニ成ルヲ誠ニ
 此上モナキ事ナリ經界ヲ正シテ取ル法ヲ立ル當代
 ノ道法四公六民ヲ規矩トシテ宜レカランヤ如何直日皇
 マテ兼併ノ弊アルニヨリ貧民ノ出ス所ハ大半ノ賦税
 ナレハ直家民ノ太輕キ賦ヲ増シテ平均ニ四公六民ナラ
 ハ今テマテヨリハマカレヘシサレトモ四ツ取ル云々是初ニモ論ル

フトク元來田主ト佃客收ル所ヲ半分ケニシテ十五
 ヲ取タルヲ農人難義スル故一ツ取レテ四ツ取其外
 一錢ニ付タル義ナリトモ公役カケヘカラスト定ムル事
 小田原北条氏ノ遺制ニシテ遂ニ當代ノ通法
 トハナリシナリ大閤ノ法ハ兵農大ニ分レシカハ地頭三分
 之一ヲ取耕民三分ノ二ヲ獲ルユヘナニシテ三ノ三餘ヲ
 公納トシ六六餘ヲ百姓トルツモリナレハ頗ル四公六民
 ヨリハ輕キナルヲ今テノ法セメテ四公六民ナラハユラユヘケレバ
 其外公役ノカリ莫大ナリ且又四公六民トハ云ヘ
 トモ十ノ物ヲ四ツ上ヘ取レハ其外ニ壹石ニ付三升ツノ口米ト

二割ノ延テ課シテ百姓ヨリ出サセ繩ワラノ代マテ取立
 レハ四取テモ半分ニ当ルナリ況ヤ是ヨリ高免ナル地ニ
 テ百姓取続ヘキ様ナシ故ニ今ノ賦税ハ各実不相心
 ノ多ク兼併ノ奸モ見ス勢カナリ一切経界ヲ正シク
 シテ輕重宜ニ適スル取方ハ大閔法三分カ一今里俗
 ノ所謂三折返ヲ定規トスヘシ田租ノ法島方勘定ニ地
 二似名共是今ハ其本ヲ失ヒ取付ノセシサクノミマカニハ重十重ニ品アレ共
 後ニ紙上ノ文具ノミニテ実地ヲ踏マテ算數ナリ今百餘年来ノ陋
 習ヲ一洗シテ至易至簡名実相当上下共便ナリ仕方アリタマヒ人ニ語レ
 トモ旧習ニヒカレテ我説ヲ信者少シ故ニ本又ニハタニ三折返ニ定免トノミイ
 トモ其制ノ詳ナルヲハ多ク 貧民ノ持分ハ膏腴ノ田ニテ
 ケハ級上ニワケンカタン

十カ一ヨリカロク当ル所アレハ兵農展ニツニ分レタル世
 界ニ夏殷周三代ノ法什カ一トイフ夏用エヘカラサルナリ
 ソレモ貧富一面ニ其通取テモヨキ夏ナラハ是ホト重
 思且ナル夏ハ十ケレト所詮四公六民ニ取テサヘ国用不
 ナレニ其家民ニノミ優免スヘキ謂ナシ豪民ノ税甚輕故
 ニ貧民ノ償フ所莫大ナリ平均ニ三折返ニシテハ国用不
 足ノヤウニ思フ人有ヘケレ共今提封ノ地ナラシテ四ツ
 取ヨリ餘程引込テ十六所詮高免ニ定タラハ貧民
 ハ大ニ積息シ富民ヨリハ是マテ輕ク納メシ所ヨリ多ク
 出スヘケレハ提封ヘナラシテハ却テ是マテ高免ニ取レヨ
 リモ收納ノ実ハ多カルヘシ是肝要ノ見キリナリ管子

カ所謂知與之為取政之室ナリトハ此ノナリ唐ノ季朝カ平賦ニ人皆

知重歛之為一可以得財而不知輕歛之得財愈多ナリ何ヤ重歛則人貧人分見則流者不帰而天下之人不來由是土地益反有荒而不耕者由是

而地カ有所遺人日蓋困財日不匱虫欲誅暴逆而威四夷後有其心豈了得耶故輕歛則人樂其生人樂其生則居者不流而流者日來則

二地無荒桑柘日繁力耕之地有餘利人日益富兵日益強人歸之如

父母虫欲馳而去之其可得耶是故善為政者百姓各自保而親其君上虫欲危也不可得ナリトイヘリ

後ハスマタ三折返ヨリ過分ニ作徳多キハ驕惰ニ流レ易

韓非カ昏ニ凡人之生也財用足則墜於用力上治懦

則肆於為非財用足而力作者神農也上治懦而行修者

曾史也夫民之不及神農曾史亦明矣トイヘル事甚

至当ノ論ナリ刑名刻薄ノ説ノヤウナレトモ今ノ民ヲ

治レニ此心得ナレハ何程惠シテモ費ルハカリテ仁政トナリ

難ニ經界ヲ正シ兼併ヲ破リ民産ヲ割シテ三折返シノ

常免ニ定メ衣ノ食ノ足ル様ニシテアタフルニ勤儉ヲ厭ヒテ

侈惰ニ安ニスル輩ハ其身ノ不調法ナレハ何程困窮スル

共賑給スル莫クハ嚴ニ是ヲ懲スヘキヤ

問侈惰ノ弊ヲ除クフ如何 曰傳ニ民生ハ在勤勤

則不匱トイヒマタ因天之時就地之利謹身節用以艱

父母ヲ以テ庶人ノ孝トスル時ハ勤儉二字百姓ノ護身

符名ヘシ然ルニ侈惰ノ多キハ農ニ利ナキカ故也今煩擾

賦
蠲
當

ラ去テ民生ヲ安ニシ横欲ヲ除ク民心ヲ慰シ力役ヲ
輕シテ民カヲ寬ルクシカ作ニ優ニシテ游手ノ者因兼
併ヲ破リテ貧富幸不幸ナク三折返ノ常免テ勤儉次
弟ニテ衣食足リヤスレ是ニ利アリテ令セサレトモ本ヲツ
トケ術ナリ兼併破ル時ハ豪民ノ勢モ自然ニ屈スレ故
凡俗ラニ名程ノ過分ノ奢侈モマツハ成カタル平民ハ勤儉
ナレハ富ニ侈惰ナレハ貧ク成ル故教ニ施シヤスレ然トモ此上
ニモ勞苦ナクシテ富ヲ為シ奢侈ノ媒ヲ成テ民心ヲソコナフ
者ハ高賈ノ民ナリ四弊既ニ革マル時ハ本業ニ利アル事
ナレ共猶又一法ヲ設ケテ農ヲ利スレノミニ非ス且コレヲ貴ヒ

高賈ハコレヲ抑ヘ且賤ムヘシ士農工商ノ次序ヲ以テ
四民ノ格ヲ明ラカニシ且其種類ヲ定メ百姓町人カタク
婚姻ヲ通スヘカラス師城下ニ居程^任スル浮浪ノ者トモ悉ク
其人別ノ本ヲ糾シ郷里ヘ返スヘシ歸ラナル内大工所國
役ノ例ニヨリテマツ庸錢ヲ徵スヘシ郷中ニテモ市場ノ村々
交易ノ事ナクシテ叶ヒ難シ然トモ自分手作ノ品ヲ持出シ
它物ト交易スルハ神農氏ヨリノ教ニシテ百姓ニモスル莫ナリ
中買々置ナドイフ事高賈ノ業ニシテ百姓ニ非スト之ハ
郷中ニモ少ク高賈ナクシテ叶ハサル所ハ高人幾人ト極メ
人別帳ニモ御百姓トハ別ニシテ帳ノ末ヘ記セ此高人ハ何程

賦
職
當

富多トモ田地ヲ取ニ限アリテ百姓壹軒前ノ半分トノ
三分一四分一ナラテハ持スル事ヲ禁シイカニ著姓旧族
トモ既ニ商人ト定ル上小百姓ノ下坐ト定メテコレヲ辱
シムヘシ其高賈ノ品物々々民間ニ有無ヲ通スル物ハガリテ
エルニ珠玉玩好ノ類凡民間不相忘ノ雜物ハカタク是ヲ
停止シ露路顯ニ於テハ没官スヘシ村ノ役義ヨリ初テ人オ
ニヨリ吏正月ナトニ仕進スル吏ハ御百姓ヨリハ取上ケ商人ハ
遠慮アル片ハ農人ハ大ニ勢ヲ得ヘシ持ニ当国ナトハ一百姓ハ
古地侍ノ遺凡残り平生專テ門地ヲ貴ヒ訟獄ノ起ル吏
大半坐論ヨリ起ル凡俗ナレハ倍ヨリテ教ヲ爲ニ農高ノ

品ヲ分ツテ勸農捷徑ナリ高賈ノ内ニモ市場ノ制
ヲ立テ不中度物ヲ禁スレハ自ラ奢侈モヤムヘシタ小農
人莫ニヨリ御城下へ出ル吏アランニ御百姓ハイカナル
富高大賈ニモ上坐ラシ詞遣等モ是マテ奉公人ト
庶民トノ違ヒタル如ク町人ヲ百姓ヨリコオサセモシ農家
女壯ノ子弟心得違テ美服浮華ヲ好マハ商人ノヨキ
キ又著タル如クホトテ笑ハスル凡俗ニモ仕方ニヨリテ成ルヘキ
ナリ何ニモカマハス骨折ラステクラス吏ヲ勝手ニ高賈
ヲ願フ豪民アラハ悉ク御城下へ移ルヘキ命アレヘシ郷
村ニ居リ半高半農ニテコソ利アルヘキヨ御城下へ徙ルハ身

此
後
當

上耗損スルニハ移ルモノ有ヘカラス一カ一移ルヲ好ム愚民
ハ勝手次第ニ所城下ヘウツシ是ヲ町人トシテ所城下ヲ
ニキヤカニスヘシ古モ専家民ヲ都下ヘ使スフ有ル例アリ
モシ鄉村ニ在ナカラ所定ノ商人ヲモナシ骨折ヲ嫌ヒテ
未業ニ趨ルナラハ周礼夫里之布夫家之征ノ法及ヒ漢ノ
高祖ノ法アリ賦税ヲ重クシテコレヲ困辱スニシカクノ如クニシテ
勸農大カタ行届クヘシ夫ニモ猶游墮ヲ事トスル者アラ

ハ大閣ノ法ニヨリ歳ニ罰スル仕方モアルヘシ天正十九年八月
八月廿一日秀吉
公制令ニテ條ヲ出サル其ニ曰在々ニテ百姓ハ田畠ヲ打捨アキナイ或ハ貨者
ホニ出候事有之ハ其者ノ事ハ不及申地下中可御成敗若奉公ラモ不仕
田畠ヲモ不作者代官給人トシテ堅相改不可置若捨無其沙汰ハ給人過
ニ者具在所召上ラルヘシ同町人百姓隠置ニラヒテハ其志郷同志町可為

内事 孟子ハ戦國ノ時ニ當テ諸侯賦歛ノ重キヲ救ヒ四方ノ
氓ヲ其所説ノ國ニ招徠セシカ為ニ市廛テ不征關譏不征
ナトク之教ラレシカ賤大夫ノ龍斨ニ登リテ市ノ利ヲアミスル
者ハ是ヲ征ストミエタリ市カリ征セサレトモ廛ノ地子ヲ取
テ末ヲ遂フ者ヲ拂アルハ王道ニモ有ル事也魯賢大夫
臧文仲カ六關ヲ廢セルヲ孔子譏リテ不仁ナリトノタマヘル
六關廢シテ末業ノモノ勝午ニ尤奢侵ヲサカニスルカ為
也周禮ニハ廛人泉府等ノ官アリテ市中ノ征布ヲ収メ
又司門司關ノ職アリテ幾書入不物者正其貨賄凡
賤物犯禁者舉之以其財養死政之老與其孤司門トモ

掌國貨之節以聯門市司貨賄之書入者掌其治
禁與其征塵凡貨不入於關者舉其貨罰其人凡
所達貨賄者則以節傳出之國凶札則無關門之征
猶幾關トモ見ヘタリ門ハ國門ニ城下ヨリ鄉村ヘ取付所ニ
アリ關ハ他所ノ境ニ在ル所ニテ門關トモ貨物ノ出入ヲ吟
味シ犯禁モノハ取上ケ危切ヌケ荷物ナキヤウニスル事也
司門司關職ヲ役ル上ハ貨物ノ宜キ程ヲハカリ征ヲ取
事暴政ニアラス凶札ニ征ヲ免セハ時ニアリテノ用恰モ
アリ然ルヲ戰國ノ暴君御吏ハ危弊ニ重斂ヲトリシ故
孟子ハ關譏テ不征ヲ説タルナリタシ孔子臧文仲ヲ

關

譏リタモヲ見シハ國ニ門關ノ制ナクシテアミニ末業ノ者
勝于過タルハ俗人ヨリ見テハ仁政ナル様ナレトモ却テ不仁
也ト知ルヘキ也漢武帝ノ時農民貧困商賈滋衆軍
用不足ナルヨリ告給ノ令トテ商賈ノ貨物舟車等
ヨリ籌錢ヲ取シテ有モトヨリ志時推宜ノ制ニテ史冊
美談ニ非サレトモ其籌錢ノ取ヤウハ諸費入台買シテ
利ヲ取ル者ヨリハ率給錢二千ニシテ一算ヲ納メシメ年々
所作ヲ以テ賣ルモノヨリハ率給錢四千ヨリ志算商賈
ハ半分ナリマタ北邊ノ富民ノ輓車ヨリハ志算商賈
人ノ輓車ヨリハ二算富農ノ車役錢ニ志倍ヨリ私五犬

關

以上ハ志算賈人有市籍者及其家屬皆無得籍
名田以便農敢犯令役人田種トイヘリサスカ聚斂セラレ
シ中ニモ亦本ヲ崇ヒホヨ仰テ道ヲ當ス後人ノ心ツカ
サル所ナリ宗仁宗慶曆年中ニ茶鹽ヲ禁シ弛ヘ及ヒ商稅
ヲ減セン事議アリシ時ノ名相范希文ヒトテ不可トス
其言ニ云茶鹽商稅ノ入但為減商賈ノ利ヲ行於商
賈未甚有害也今國用未減歲入不可闕既不取之
於山澤及商賈須之於農與其害農孰與取之ニ商
賈今為計莫若先省國用國用在餘當先寬賦役
然假反商賈弛禁非所當先也トテ其儀ヲ遂ニ復シトイ

ヘリ商稅ヲ弛ムルアシキ事ニ兆サレトモ小惠アリソレヨリハ
先國用ヲ省キテ農賦役ヲ寬フスヘキニ是ヲサシ置テ目前
ノ小惠ヲ行ハントスル固ヨリ大體ヲ知ラサルモノ、議ナリ
范公ハ天下ノ憂ニ先テ憂ヘ天下ノ樂ニ後テ樂ントイヒ
シ程ノ賢者ナレハヨク緩急ノ序ヲ得ラレシ事也 義公
ノ初年ニ益紙酒桶紙舟高野村山北中川舟役等ノ
稅並諸荷只茶烟州織木綿線綿紙鹽皆志簡ニ付
鹽ハ志依
錢若干ト皮メテ斂メタマヒシナリ天和三年七月非
日ニモリ録固ニ在セシ時鄉村ニテノ諸役御免 仰出サ
ル條ニハ鹽紙役ニハ民ノ舟役三ニハ鹽釜役四ニハ甕役

大 義 當

五畿郡役六ノ八負 苗役七ノ六山北役八ノ六在々ヨリ納候
柿洪例年ニ半分納メ可申候事ニテ又明ニ義公ノ
仁政ハ四民共ニ其所ヲ得セシメタヒニ特ニ小民ノ産
業ニ利アルヤウニナシタモフ事誠ニ難有御ナリ諸淳
役モ其利ヲ盡サツシテ民ニユルシタモフ事後世ニ至ルニテ
誰カ恩澤ヲ抑カサルヘキ諸荷口錢ノ事ハ何ノ時ニ免除
アラレシヤ今タキカツサレトモ今ハ絶テナキ所ナレハ免除
アリシハ必定ナリ逐末ノ徒ナルコトイフニヤ及フキカル
内ニ天和中免除シタマヒシ郷村ノ諸役議並執役ヲ
除クノ外ハ悉ク又收納セラルト聞ヲヨフ定テ寶永御

改革已後ノ事ナルヘケレトモ 義公ノ恩澤ヲ小民ニ布キ
タモフ所ヲ皆々革除セル事豈臣子タルモノ能忍フ
處ナランヤ是モ國用不足ナラハ姑ク是非ヲ論スルニ及ハ
サレトモ其贏ノ獲ノ利幾何ソヤ農ノ本業ニ非サレ
トモ小民ノカ作シテ活計ヲ助ル所ヨリ稅ヲ取ル程ナラハ
何ユヘニマタ旧時ノ如キ高賈ノ輩ヨリ諸荷口錢ヲトラ
サルヤ漢武ノ仕方ニモ愧テ采人ノ議論ニヨリテイフ時ハ
緩急ノ大體ヲ矢ヘリト謂フヘシ紙舟役ヲハ小民ヨリ取レ
トモ紙烟草ノ諸荷口錢ナキ故商人ハ思フ俛ニ荷物
ヲ境外ヘ出シ大富ノ業ヲナスセ一歳ニ江戸其外ヨリ

大富ノ業ヲナスセ一歳ニ江戸其外ヨリ

入ル所ノ金錢穀敷事ナレトモ皆々石買シ其ノ豪民
 ノ商賈ノ業ヲ為スモノ、言、利ト成テ公上ヘハ浮役ハ
 尅錢モ上納セス然ルニ國計ヲ司ルモノ用不足在時ハ
 士ト農トニハ罪モナキ償金ヲ課スレトモ高賈ヨリ稅ヲ
 取事ハ夢ニモシラス、アマリテ御用金ヲ備テ借取
 ニスル工夫ノミナリ國君ノ上ニハ國中ノ物ハ皆我物
 ヲレハ取ルトコソイスキ備ルトイフ事ハ有マシキヨ
 孔子モ教ラレタリ俗吏ノ事弊ニ昧キ笑フヘキ事
 ナリ今農ヲ貴ヒ末ヲ抑フル為ニ農ノ賦役ヲユル
 メテ高賈ノ荷コヲ古法ノゴトク稅シニ民ヲ力作シ

商稅ヲ取トキ
 ハ必物價ヲ貴
 クスルナリ然ハ公
 民トモニ費ル事
 ナリ抑末ハサル
 事ナレト稅セ
 ニハシカツ

テ賣ル所ハ浮役ヲユルス術モアルヘシ然レトモ高賈
 ノ狡點中ナカ己カ利ヲ分減セラレテヒトリ損ヲスヘキニ
 アラス小民ヨリ力作シテ出ス所ノ厚直ヲマスフミテ買
 フトキハ高賈ヲ困メントシテ却テ小農ノ迷惑スル
 事ニモ及フヘケレハ容易ニハ行ヒカタシ但崇平抑末
 ト云事アマリ人ノ心付サル故聊此論ニ及フ也
 問制度ト凡俗ニテ奢侵ヲ止サセ游墜ノ者ハカ役ヲ
 課シ且職事ナキノ罰アリテマタ三打返ノ常免行ハルハ
 散田棄作ノ奸モ自ラ止ムヘシ
散田棄作ノ奸ハ免ノ高クシテ
 贏利サヤハワサトアラシ種
 夫食等ヲ取ルナリニ作リ檢見ヲ受テ皆引コト外ニ畝ノヒカ下免ノ地
 ノミカラ用ヒコヤシテ利ヲ得ル事ヲ斗ルニ檢見ノ輩モ是マテ吟味スル

賦
 當

ニ及ハス大抵奸民ノ為ニ愚ニセラルト云ヘリ是民ノ奸斗ナレハ棄
作ノ田ヲ檢ヤシニ其田主人惣高ラセシキ外ニ在ル所ノ田熟作ニテ
取付フ上ニモ贏餘アラハソレヲ吟味シテ割結ニ收納セハ棄作ノ奸
ハ行ハル一カラサルニ、タリ然レトモアマタノ田土是ニテ細カニセンサ
届ク一カラス且棄作ニスル田モト無理ナル取付ユニカクスルナレハ
奸トハイトモ怒ヌヘキ所モアルナリ一坊経界ヲ正シクシテ三行
返ノ常免ノ法立キタラハ公私共ニ御城下エ出タル僑民郷
曾易ニシテ利アル一キナリ
村一返スニハ定テ農具種夫食ノ世話有司ヨリ有
ヘケレトモ御城下ニ日庸トリサシクシテ武士町人トモ
ニ迷惑スニキ歟且宗本抑末ハ至極ノ論ナレトモ一察
ニ嚴ニセハ國中窮屈スニキ歟管仲ナトカ富國ノ筭
左様ニイケタル事ニハ有一カラス如何 曰御城下ニ
日庸トリ減シ技民ノカタツク事是亦ト重疊ナル

事ナシ武士ハ日庸取ケクシテ僕従ナクハ何程ノ役録高
キ人モ真ノ家来ヲ抱ヘサルウチハ供連ナキ様ニ定メ知行
所ノ百姓ヲ擇ヒ軍役ノ用ニ立ツ術ヲ為スニ後法古ニ
後シテ凡身アル者庸ヲ出セハコレヲ規避シテ權門
勢家ニ託スル事古ヨリ定マレル勢也武家ノ家来
ニ庸錢ヲ出サス游民リハ庸錢ヲ出サハ今ニテノ間
民武家ノ奉公スル者マツ給金モ自然ニ賤ク武士ノ
勝手タルヘシ然トモ過分ニ武士ノカ、一分ナト、テ庸錢
ヲ避ル斗ニ肩ヲイル輩ハ有司ヨリ嚴ニコレヲ禁シ知行
高軍役ノ割ヲ以テ武家来ノ数ヲ限リ鄉村課丁ノ

減セキル様ニスヘシ武家ニ家来ニタク給金賤時ハ
 役金ヲユルシテ右ノ如ク人数ヲ出サセ足輕ト共ニ御普
 請役ニ使ヒ是迄ノ如ク来曆モシラナル浮浪人ヲ御城
 下ニ居レハトテ大切ノ要害ノ入込ム様ナル事モ止メシ
凡ソ兵ヲ足スノ策古制ニ泥マズ今俗ニカ、ワラス時ニ違スルノ術アリ
 其説頗長ケレハ此書ニハ畧シ且ツ此書專ラ勸農ノ事ヲ主トスレハ武備
 ノ事ハ別ニ
 論スヘシ 町人ノ店ノ者他所商人ノ子ハ各別郷村ノ子ハ
 米女ク郷里ニ歸スヘシスヘテ士ヨリ以下ニ主従ハナキモノト定
 上下ノ等則ヲ明ラカニシ工商ノ徒ハ古ノ易子テ教ユト云フ
今テウチキライイフハ詞ナレドモ
 今モ近江ノ國ノ商人ノ詞テシト
 云フ 戸ノ主人ヲハ親方ト称サセ先生トイフモ親方ト
 同シ理ナリ 檀那トイハ

セス農人並工商ノ家ハ年季奉公スルモノモ元是平民
 ナレハ下男下女トイハセス賃ヲ出シテ雇ヒタル心ニテ年
 季雇人ト称サセトカクニ民ノ本業ヲハナレサルヤウニスコ
 町人ニ餘リ驕奢安佚ニ耽ルハ身上衰ルノ基ナレハ如
 何ナル富家ノ子弟タリトモヤ仕ノ内ハ年足ヲモ勞スル
 事尤然ルヘキ也且崇本抑末窮屈ノヤウナレトモ如此
 ナラテハ國ハ決而富ムコトナシ管仲ク齊ヲ治ム子女閭
 ナトマテコシラ山師ノ元祖ノコトク後人ハ思ヘトモ實ハ左
 アラス齊ノ國ハモ潟國ノ僻地人民寡キ所ニ大公望
 其女エヲ勸メ伎巧ヲ極メサセ魚鹽ノ利ヲ通セシカハ

人物多ク是ニ歸シタリシカ其後管仲ニ至テイロイロノ
寄策モ有シトモ其第一ニ規模ヲ定メリ參國伍
鄙ノ制ト云ハ城下ヲ士郷ニ郷商郷トテニニ分ケ郷村ヲ
五ツ屬ニ分サル事也是屬九萬家ツニテ五屬ツニテ
五屬ニハ四拾五萬家也是郷數千家ニテ士ノ郷十五
分テ三萬家ナリニ郷三ツ六千家商郷三ツ六千家
ニ商合テ六郷ワツカ是萬二千家ナリ本末ノ權衡
是ニテ心得ヘシ本ヲ外ニシ末ヲ内ニシテ富國ノ術ヲ求ル
ハ本ニ録リテ莫ヲ求ルヨリモ愚ナル事也農ノ賦
役ヲハ寬セスシテ末業ノモノヘ思惠アルコト甚思シ

スヘテ恩賜ノ事一則以為 二則以為常三則以死
其不足ト管子モイヘルコトク町人杯ノ侵墮ニヨリテ貧
困セル者一則公卿救金杯下サル何ノ益モナキ事ナリ
卿救ノ金ウケ取テ酒ヲ買醉ニ樂シテ其父ヲ患ヒセシ
者モ有ト聞及フ均モナキ事ナリ郷村ノ商賈ヲ抑ヘル
時ハ御城下ノ町人ハ賑ハサストモ繁昌スヘキ也凡古ノ窮
民トイフ者ハ鰥寡孤獨廢疾ホノコトヨルヘキ方ナキ
者ノミ上ヨリ恩惠アル事フテ侵墮無職事者ハカ
ヘツテ討セラルヘキ也五幣既ニ羊マリタル上ハ人ノ本意ヲ
ツトメ田里ヲ安スヘシ於是嫁娶ニ物入ナク男女時ヲ

失ハサラシメ生子ヲ育スルノ令ヲ嚴ニシ浮浪ヲ禁スレハ
庶アル事ハ百姓スルニ及ハス民ノ産ヲ制シ資財ノ源ヲ
開キ勤儉ヲス、如倭墮ヲ禁スレハ富在其中然後ニ
人倫ヲ明カニスル教戸コトニ喻シ人コトニ告ケストモ行届
ヘキ事也

問君子ハ民ノ父母ニシテ仁者ハ人ヲ愛ストイヘリ聖人
治國ヲ論スルニ節用而愛人トノタマヘハ國用ヲ制スル
事其道イカレテ可ナランヤ曰節以制度不傷財不
害民トイフ事アリ國家財用ハ民ヨリ出ル物ナリ
モシ節制謹度コトアタワツシテ財用足ラサレハ是非

ナク横賦暴斂ヲ民ヘカクルヨリ好ナリ何程惻隱心ア
リテ人ヲ愛スルモ人其澤ヲ蒙ラズ故ニ愛民ニハ必先ツ
節用ヲ先トスル事ナリ古人モ無政事則財用不足ト
ヒ、テ國斗ヲハ甚タ重シ斗筭ノ小人ニ任セ置キモノニ
非ス周禮ニ冢宰邦治ノ大本ヲツカサトリ邦中關市山澤
等ノ九賦ヲ以テ財賄ヲ斂メシメ祭禮賓客表等
ノ九或ヲ以テ財用ヲ均節セシメ大府ノ官ツテ凡官府
ノ吏執事者財用ヲ受ル時ハ或法ヲ以テコレニ授ク
關市之賦以待王之膳服節中ノ賦以待賓客四郊
之賦以待芻秣家削之賦以待匪頒國甸之賦以待

大
賦
官

工事邦縣之賦以待幣帛邦都之賦以待祭祀山澤
之賦以待喪祀幣餘之賦以待賜予凡邦國之貢
以待予用凡萬民之貢以充府庫凡式貢之餘財
以供玩好之用トテ其名目ヲ後世ニカワリアレトモ何多
分ヲハ何々ノ入用ト拂方分明ニ定リ有故凶年ニハ凶
荒ノ礼式アリテツレタケ國用ヲ減縮セルナリ王制ニ冢宰
制國用必於歲之折五穀皆入然後制國用々地ニ大穰
年ノ豐純以三拾年之通制國用ニ量入以為出トイヘ
ルヲ國用ノ惣クノリ國ノ盛衰ニ関ル所ナク執政ノ大臣
壹歲ノ入ヲ量リテ年ノ暮ニ豫メ明年ノ出シカタヲ

考ニ常ニ四分一ヲ餘シテ軍國不虞ノ備トスルナリ故ニ
國無九年之蓄曰不足無六年之蓄曰急無三年
之蓄曰國其國也コレ聖人ノ訓也毎年ノ入ル所
四分シテ其壹ヲ餘シ不虞ノ備トナシ三拾年クラシテ
拾年分餘様ニスレハタト一天災人禍アリトモ國ノ貧
困ニ至ルナシ是萬世ノ上斗也是ヨリ下リテハ壹年
ノ入ル所ヲ其歲キリニクラシ卒居無事ノ時ハ民ヨリ
雇取スル事ナケレトモ少シモ不意ノ變アル時償ヲ
民ニ掛ケサル事能ハス其國大事ヲ勤カスコトハナラ
ズトモ靜カナル時ハマツ小康也此亦壹時ノ中計ト

大義

イフモノ也今ノ世ニアリテセメテ是年キリニモ他人ヲ仰
カスレテ國用ヲ制スルハマレナルヘシ然レモ古聖人ノ規矩
ヲ以テイフトキハ三年蓄ナキハ國其國ニ非ストテ甚危
キ道理ナリ最下ニシテ謀ナキ者ハ是年ノクラシ出ス
所入ル處ヨリ多ク民ニ取ルコト國用ニスリ合セントシテ
日々ニ重クソレニテモ足ラサレハ給ヲ富田高大賈ニ仰テ目
前ヲ支吾ス是不終月ノ下計也此萬世是時不終月
ノ三計ハ某カ言ニ非蘇東坡カ論ナリ今ノ諸侯ノ國
用此下計ナラサルハ少ナカルヘシ理財ノ道サマザアリト
イヘトモ國用ヲ節ニスルノ要訣タ、量入以為出是語ニ

過ヘカラス此外ニ奇妙ノ術ヲ求ル皆影ヲ捕ヘ凡ニ係
クノ談志切邪説ナリト知ルヘシ財用ノ盈虚ハ節ニ
スルトセサルトニ在リ節ニセサル時ハ盈テリトイヘトモ
必竭キ能節ニスレハ虚ナリトイヘトモ必盈古今定理也
人君ノ禄ヲ天禄ト云志己ノ身上ニ養フタメニ非ス土地
相應ニ民ヲ治ムル士大夫ヲ立置キ且軍役ノ人馬ヲ養
ヒ國ノ武備ヲ張ル事是天禄ヲ有テルモ天職也古ノ
聖賢ノ論制スルニモ及ハス蒲生氏郷會津百萬石ヲ
領シテ多士ニ厚禄ヲ與ヘ其入藏ハ總九万石餘ナリ
池田輝政播備淡三國ノ主トシテ凡拾萬石ヲ食タマ

一トモ自身ノ暮シ方ハ三萬石ノ極ニテ後庭ノ婦妻
三拾人ニ過ス封田ノ田土金穀ヲクノ士ヲ養ヒ置テ天下
ノ千城クル幸ヲ謀リシト云英雄ノシカクソアルヘキ也
マタ備前新太郎光政朝臣即輝政ノ孫ハ常ニ國計ヲ重キ
事トシテ時々自分ニコレヲ聞キ入ラ量テ以テ出スコトヲ
セラレタリト云紀伊重相公ハ南龍院頼宣郷ノ御事自ラ工夫シテ
碁盤ノ号ト云フ繪号ヲ作ラシ五色七色八色ニ彩色
御領國納米ノ惣高ヲ奉免ヲ四ツ五ツ六ツト極第一
御家中ノ知行切米第二江戸未勤上下入用銀第
三在江戸ノ入用第四所ニ普請第五御臺所入用

第六鷹野猿樂ホノ入用ケ様ノ所々ヲ分テ御普請作
事有時ハ外ノ入用ヲ減シ又加増御金可被下年ハ又普
請作事ヲ止メアナタヲナタメ入合セ融通セシ故御勝手ニ
増減ノ午品有テ惣テ御身躰スハリテ御志代之内御
國用窮迫セル事ナシトイヘトモ是他邦ノ事ナレトモ誠ニ
諸侯ノ度タルニ本藩モ始封ノ初出國ニ大ナル工役アリ
且シハヒハ御上浴ノ事一在シカトモ國用ノ不足ヲ患フル
莫今世ノ如キ事ヲ聞カズ威公義公ノ御時ハ節用
ノ政行ハレ軍國備ヲ專ラトシテ卒生ノ浮費ナキ故ナルヘシ
寛永ノ末高三拾六万七千三百五拾七石五斗八升或合

大藏省

有テ 公義ハ六ハ八萬石ト稱シタマヒ封内テ士大
夫ハ地方ニテ割與ヘタマヒシ所戴拾三萬三千六百餘石
ニ及フ内ニ拾五万石 其外物成詰御功符ホラ高ニ見
テ給方マ一テ三拾三萬百四拾六石五斗殘高ニ三萬七千
戴百拾七石八斗ニ合ラ御クラレ方ノ分ト定メ入ラ量テ
出ヲ為シタメフニ七田畠ノ賦稅ハカリニテ諸浮役ヲハ
經費ニ入レタマフサルト聞ケリ 義公ヲ御時新墾ノ
田アリトイヘトモ四方石ノ御分地アリシカトモ國用ノ不足
甚シキ事ヲ聞カス 二公ノ御時百姓町人ヨリ御用金御
備上ナト云フ事ヲ曾而ナキ事ナリ肅公ノ御時侵大ヲ

好ミタマワ元祿拾四歲ニ義公薨逝ノ始テ幕府ニ請テ
三拾五万石ト稱セララル是年ヨリ國用大ニ不足シテ始テ
清水仁右衛門トカヤイフ浪人ヲ勘畧役トシテ召抱ラ種
々ノ新法弊政ヲ行ハシ終ニ松並勘十郎ナル者ヲ引込
忌憚所モナク悉ク 祖宗ノ法改革セシメ國民ノ騷
動ヲ激シ下ヲ剥キ上ニ附益セシ聚斂ノ餘毒今テニニリテ
國ノ元氣ヲ損スルニ至ル是ナリ先元祿十三年辰
常憲院殿礫川ノ郎ニ 度御アリテ大學君播磨君
各戴萬石ノ地ハ別ニ封ラ賜ハリ封内ニテ分タレシ四萬石ハ
本藩ニ歸セシ也此年國ノ富民ニ尅萬六千三百三拾

八面ノ御用金ヲ命セラル始封己来ノ所無也幾程ナク
寶永元年甲申マタ千八百貳拾七兩貳分ノ御用金ヲ
命セラル是御本宅御普請金ノ費トツ聞ヒ也是ヨリ
己采國用時ニヨリ盈縮アレトモミナ五拾步百歩ノ間ニテ
其走ル事ハ一ナリ大抵出ル所ヨリ多ク有司ノ會計ヲ
司ルモノ朝三暮四ノ術ヲ以テ谷モ目前ヲウクコフニ克
國用ヲ論シテ前世ニ於凋弊之時猶能易貧而為富
今吾以金盛之勢用財有節其所省者一則吾之一也
其所省者二則吾之二也トイヒマタ誠詔有司而講求
其天下之費故按尋載籍心有馱於旧而浮於今者

有約於今而浮於旧者其浮者必求其所以浮之由而
仕之其約者必求其所以約之由而從之トイヘリ司計ノ臣ニ
如此忠言ヲ獻スル人ナキ事悲ムヘシ近世ニ至テハ地方
ニテ給スル所ワカ七萬石餘物成詰扶持米多シト雖
古ノ時ニクラフレハ御藏入ノ高段々ニ増タル事ハ必定
ナリ然ルニ國用ノ不足トイフハ志切元祿寶永己後ノ
積弊ニテ建國ノ始制ハ立返ラステ百年ノ間虚而為
盈約而為恭ノ仕掛ヲ用ヒタモフカ故也此愚弊破除
セサルウチハ何程御藏入ヲ増シ厚ク歛ルトモ入ル所委
タレハ出ル所亦多ク國用ノ足ル事決シテ有ヘカラス

昔ハ國用ノ數危歲ノ經費貳萬ニ至ラスト云今ハ數
萬金ヲ費シテモ猶不足ノ所危石餘ナリト云フ是ニ謂
所能節則雖虛必盈不節則雖盈必竭ノ道顯然
タリ有司タルモノ此ヲハ悟ラスレテ御家中妾過ル故ハ公
室ノ財用不足ナト云ヒ士大夫ノウ千或ハ死シテ嗣ナク
或ハ罪アリテ追放セラレヨリ其祿ヲ收公スレハ上ノ御
益何程附タルナト常談ニイフ事人君ノ富厚ハ元来
軍國ノタメ士大夫ヲ養フヘキ天祿ナリ道理ヲ忘レテ
公上ノ御冥加ヲ損スルコト勿躰ナキ次第ナリ士大夫ノ
祿ハ地方ニテ給ハルヘキヲ近年物成詰次第ニヌク成テ

凶年ニハ土地ヨリ生セサル所ヲ府庫ノ財ヲ以テ償ヒ賜ヒ
國用不足スルトモ臣下タル者ハ己カ利ニ耽テ豊年ヲ願ハス
君臣上下憂樂ヲ殊ニスルコト是亦制度ノ失セル惡弊
ナリ諸侯ノ寶ハ土地人民政事ノ三ツニテ土地ヨリ生スヘキ
物ヲ人民ノカニテ作出シ貢納セル財用ヲ政事アリコレカ
節ヲ制スルヨリ外ノ術ナケレハ士大夫ノ俸祿ヨリ己下一切ノ
入用悉ク皆知行高ニテ定メ置頗ル餘計ヲ儲テ不虞
備ニナシ某ノ料ニ幾千石某ノ料ニ幾百石トアラ置キテ
サテ其危歲ノ豊凶ニヨリ邑入ノ妾寡アルニ隨ヒ明年ノ
用度ヲ盈縮シ妾細ノ割合ヲハ割物奉行大吟味職
旧名命セ

ラレ國用ノ大計ヲハ執政上大夫ニテ大吟味ヲナシ君上ヘ
申上善敷ハ不第策ト云フコトク大體ノ上ハカリヲ極メテモ
フ事勞セスシテ成ル事ナリ此制一タヒ立トキハ奢倭ハ抑
ヘカラスシテモ度ノ浮費ヲ事トスルコト能ハス軍國ノ備
常ニ有餘テ愛人ノ政々君上ク思君ノマニテ誠ニ百年
ノ盛事千古ノ危快ヲルヘク奉存也

寛政十一年丁巳孟秋無名居士書於因等齋

兼併之害遊食之蠹古今同軌識者論之亦詳
而歷世既知

兼併之害遊食之蠹古今同軌識者之亦詳而歷
世既知其弊以不草者如何封建之治因循侯之
然也保元以還皇威不振朝權全落于武人俗吏
之手虛位假爵霸道是勉盜名以失其失捨本以
趨其末慶元以降此弊特盛適有大有為之主以
革弊除害為急切為之倡導其人已逝而其事熄
流連以至乎今日非國家失体之尤者耶俗吏奸
夫動謂有富農巨商者國之器而緩急是辨亦不
可欠也毫縣主毫邑宰而仰緩急于富農賴巨商
以得生活之資者嗚呼此果何事也不憂一夫之

兼併之害遊食之蠹古今同軌識者之亦詳而歷
世既知其弊以不草者如何封建之治因循侯之
然也保元以還皇威不振朝權全落于武人俗吏
之手虛位假爵霸道是勉盜名以失其失捨本以
趨其末慶元以降此弊特盛適有大有為之主以
革弊除害為急切為之倡導其人已逝而其事熄
流連以至乎今日非國家失体之尤者耶俗吏奸
夫動謂有富農巨商者國之器而緩急是辨亦不
可欠也毫縣主毫邑宰而仰緩急于富農賴巨商
以得生活之資者嗚呼此果何事也不憂一夫之

不得其所以廢幾鉅農之受於國者惑之甚耻莫大
焉今也士風廢顧武將之權亦落于商賈之手天
下事無大無小悉決乎奸商黠賈孟軻所謂日蹙
百里者即是也嗚呼世之於聰明之主亦無賢良
之相百事瓦解不如符默以待聖人之出矣

快烈主人識

此其亦要示以何九學計也蓋其六曰為之主以
之千益出好清廉也其四益快烈主人識
然也知子以惡皇朝不取陳辭全也
世所嘆其學以不草書也何接致也
集併之言或身之論古今同弊為者之亦其可也

水滸

